

2022年度

弘前市医師会健診センター報告書

弘前市医師会健診センター 検診課

# 2022年度報告書 目 次

	ページ
I. 健診報告	
1. 健診実績及び業務内容	1
2. 診察	3
3. 血圧測定	4
4. 脂質検査	5
5. 肝機能検査	6
6. B型肝炎検査	7
7. C型肝炎検査	8
8. 代謝1(HbA1c、空腹時血糖)	9
9. 代謝2(尿酸)	10
10. 血液一般検査	11
11. 尿一般検査	12
12. 心電図検査	13
13. 眼底検査	15
14. 肺機能検査	17
15. 腹部超音波検査	19
16. 胸部X線検査	21
17. 喀痰細胞診検査	22
18. ABC 検診	23
19. 胃部X線検査	24
20. 大腸がん検査	25
21. 乳がん検査 1)マンモグラフィ検査 2)乳房超音波検査	26
22. 子宮頸がん検査	28
23. 前立腺がん検査	29
24. 特定保健指導	30
II. 学校(児童・生徒)心臓病検診	31
III. 学校(児童・生徒)腎臓病・糖尿病検診	32
巻末付録	
付録1. 指導区分判定基準表	
付録2. 総合問診票	
付録3. 心電図所見の判定及び事後指導区分	
付録4. 腹部超音波検査所見の判定及び事後指導区分	

## I-1. 健診実績及び業務内容

### ■健診実績

当健診センターでは弘前市およびその近郊の市町村や協会けんぽなどの健康保険組合や共済組合、各企業より委託を受け、がん検診や生活習慣病予防健診、法定健診、人間ドックといった各種健康診断を行っている。

表1に2022年度の健診コース・年齢別の健診実績を示す。総受診者数は49,901人で、男性24,444人、女性25,457人であった。

職域健診は受診者数割合が当健診センター受診者全体の70.3%と住民健診の29.7%に比べ多くの割合を占めており、当健診センターにおいて重要な健診の一つとなっている。また、「事業所健診」は各健康保険組合や企業より委託される生活習慣病予防健診や法定健診、特殊健康診断を併せて集計した。

住民健診のうち、20・30代健診は40歳未満で職域健診等の受診機会のない方を対象とした健康診断であり、40歳以上から受診できる特定健康診査に移行を促す目的で実施されている。

各種がん検診の内「がん検診」は胃・肺・大腸がん検診のどれか一つ以上を受診した者の人数を集計している。50歳以上の男性と65歳以上では男女ともに巡回がん検診の受診者数が施設がん検診よりも多くなっている。これは地域の小学校や公民館を会場として町会毎に行うことで、移動手段を確保しづらい高齢者が受診しやすくなっているためであると考えられる。

### ■業務内容

#### 1) 職域健診

各健康保険組合人間ドック	<事業所ドック>
各健康保険組合生活習慣病予防健診	<事業所健診>
事業所法定健診	<事業所健診>
協会けんぽ生活習慣病予防健診	
特殊健康診断(有機溶剤等)	
教職員健診	

#### 2) 住民健診(市町村委託)

国保人間ドック、特定健康診査、20・30代健診

#### 3) 各種がん検診等

胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、乳がん検診(マンモグラフィ検査・乳房超音波検査)、子宮がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診

#### 4) 学校(児童・生徒)検診

児童・生徒心電図検査、児童・生徒腎臓病・糖尿病検査

#### 5) 特定保健指導

健保、共済組合委託特定保健指導

弘前市国保委託特定保健指導

表1. 2022年度 健診実績表

年齢		健診コース															
		職域健診（企業・健保・共済委託健診）						住民健診（市町村委託健診）									男女別計
		事業所 ドック	事業所健診 （施設）	事業所健診 （出張）	協会けんぽ （施設）	協会けんぽ （出張）	教職員健診	男女別計	国保 人間ドック	特定 健康診査	20・30代 健診	がん検診 （施設）	がん検診 （巡回）	乳がん検診	子宮頸がん 検診	前立腺がん 検診	
性別	0	201	78	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
～19	男	0	175	59	1	0	0	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	376	137	1	0	0	514	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	376	137	1	0	0	514	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24	男	0	648	444	0	0	8	1,100	0	0	15	0	0	0	0	0	15
	女	1	577	503	34	0	23	1,138	0	0	42	0	0	0	11	0	53
	計	1	1,225	947	34	0	31	2,238	0	0	57	0	0	0	11	0	68
25～29	男	7	852	575	0	0	19	1,453	0	0	58	0	0	0	0	0	58
	女	5	773	259	58	0	21	1,116	0	0	93	0	0	0	30	0	123
	計	12	1,625	834	58	0	40	2,569	0	0	151	0	0	0	30	0	181
30～34	男	28	822	578	100	25	11	1,564	0	0	82	0	0	0	0	0	82
	女	25	715	243	150	18	20	1,171	0	0	129	0	0	0	32	0	161
	計	53	1,537	821	250	43	31	2,735	0	0	211	0	0	0	32	0	243
35～39	男	56	288	334	1,035	196	7	1,916	3	7	118	74	1	0	0	0	203
	女	54	414	144	753	180	21	1,566	1	9	184	163	8	28	65	0	458
	計	110	702	478	1,788	376	28	3,482	4	16	302	237	9	28	65	0	661
40～44	男	92	306	309	1,315	209	18	2,249	33	58	0	136	98	0	0	0	325
	女	93	454	157	990	191	27	1,912	20	135	0	269	70	243	105	0	842
	計	185	760	466	2,305	400	45	4,161	53	193	0	405	168	243	105	0	1,167
45～49	男	130	399	384	1,436	261	33	2,643	48	30	0	94	87	0	0	17	276
	女	126	523	167	1,117	216	74	2,223	36	112	0	201	104	149	105	0	707
	計	256	922	551	2,553	477	107	4,866	84	142	0	295	191	149	105	17	983
50～54	男	141	381	289	1,274	267	61	2,413	53	41	0	93	102	0	0	11	300
	女	111	463	176	1,045	220	95	2,110	42	135	0	230	126	173	129	0	835
	計	252	844	465	2,319	487	156	4,523	95	176	0	323	228	173	129	11	1,135
55～59	男	156	314	249	1,213	233	69	2,234	76	44	0	95	109	0	0	17	341
	女	108	460	157	900	276	109	2,010	80	158	0	238	130	123	96	0	825
	計	264	774	406	2,113	509	178	4,244	156	202	0	333	239	123	96	17	1,166
60～64	男	136	374	186	1,074	172	41	1,983	113	81	0	148	164	0	0	36	542
	女	77	272	146	674	212	33	1,414	106	213	0	329	303	155	126	0	1,232
	計	213	646	332	1,748	384	74	3,397	219	294	0	477	467	155	126	36	1,774
65～69	男	31	211	67	535	74	7	925	141	153	0	248	296	0	0	18	856
	女	22	146	64	253	108	4	597	145	249	0	368	500	121	98	0	1,481
	計	53	357	131	788	182	11	1,522	286	402	0	616	796	121	98	18	2,337
70～	男	34	208	28	202	21	0	493	157	416	0	696	896	0	0	29	2,194
	女	18	130	42	90	37	0	317	153	474	0	713	1,311	161	119	0	2,931
	計	52	338	70	292	58	0	810	310	890	0	1,409	2,207	161	119	29	5,125
男女別 小計	男	811	5,004	3,521	8,184	1,458	274	19,252	624	830	273	1,584	1,753	0	0	128	5,192
	女	640	5,102	2,117	6,065	1,458	427	15,809	583	1,485	448	2,511	2,552	1,153	916	0	9,648
各種健(検)診 小計		1,451	10,106	5,638	14,249	2,916	701	35,061	1,207	2,315	721	4,095	4,305	1,153	916	128	14,840
総合計に占める 割合(%)		2.91	20.25	11.30	28.55	5.84	1.40	70.26	2.42	4.64	1.44	8.21	8.63	2.31	1.84	0.26	29.74
男性合計		24,444															
女性合計		25,457															
総合計		49,901															

## 2. 診察(表2、図2)

医師による診察はほぼ全ての健診項目に含まれており、この分布が当センターの受診者分布の傾向を示している。

受診者の分布は20歳代から増加し40～49歳代で最も多くなり、60～64歳代までは男女ともに約2,000人程で推移し、65歳以降は減少している。これは、職域健診に加え、40歳以上から対象となる住民健診が加わるためである。男女ともに65歳からの減少幅が大きく、定年により職場を離れると健診を受けなくなる傾向にあると考えられる。

表2に示すように、医師による診察を受けた人数は35,776人であった。内訳として男性は19,326人、女性は16,450人であり、男性の方が多かった。

要精検者数は1人であったが精検受診していない状況があり、受診勧奨連絡を着実にやっていくことや、受診していたとしても医療機関から精密検査報告書が確実に返信されるようにするなど状況把握に努め、精検受診率を高め、異常の早期発見に繋げる必要がある。

表2. 診察を受けた人数

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率
～19	男	143	0			
	女	79	0			
20～24	男	914	0			
	女	712	0			
25～29	男	1,361	0			
	女	1,032	0			
30～34	男	1,484	0			
	女	1,114	0			
35～39	男	1,860	0			
	女	1,604	1	0.06	0	0.00
40～44	男	2,158	0			
	女	1,912	0			
45～49	男	2,489	0			
	女	2,168	0			
50～54	男	2,372	0			
	女	2,105	0			
55～59	男	2,227	0			
	女	2,077	0			
60～64	男	2,035	0			
	女	1,712	0			
65～69	男	1,238	0			
	女	1,008	0			
70～74	男	686	0			
	女	638	0			
75～	男	359	0			
	女	289	0			
小計	男	19,326	0		0	
	女	16,450	1	0.01	0	0.00
合計		35,776	1	0.00	0	0.00

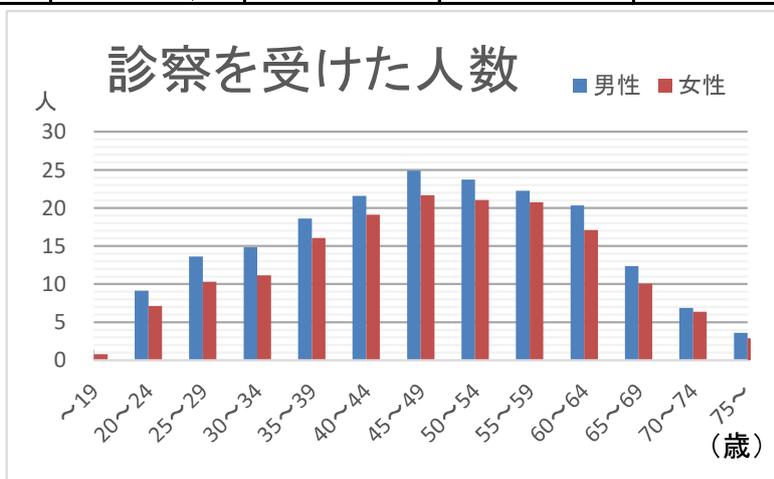


図2 診察を受けた人数

### 3. 血圧測定(表3、図3-1、図3-2 )

血圧測定の総受診者数は29,205人であった。

そのうち要精検となったのは1,143人で、男性全体の要精検率は4.71、女性全体では3.05で、男性の方が要精検率が高かった。

要精検率のピークは男性70～74歳で9.59%、女性は75歳以上で9.42%となっている。要精検率において74歳までは男性の方が高く、女性の要精検率が男性をわずかに上回ったのは75歳以上のみであった。

精検受診率においては男性全体で26.99%、女性全体では39.25%で、どの年代においても男性の方が女性に比べ精密検査の受診をしない傾向にあった。

表3 血圧測定

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	142	0				1
	女	79	0				0
20～24	男	916	3	0.33	0	0.00	2
	女	712	2	0.28	1	50.00	1
25～29	男	1,358	9	0.66	0	0.00	15
	女	1,030	5	0.49	1	20.00	4
30～34	男	1,475	23	1.56	4	17.39	29
	女	1,109	4	0.36	1	25.00	8
35～39	男	1,786	57	3.19	11	19.30	90
	女	1,577	34	2.16	11	32.35	29
40～44	男	1,972	98	4.97	16	16.33	188
	女	1,840	47	2.55	14	29.79	74
45～49	男	2,107	112	5.32	28	25.00	397
	女	1,981	56	2.83	14	25.00	192
50～54	男	1,784	131	7.34	41	31.30	598
	女	1,766	71	4.02	26	36.62	345
55～59	男	1,480	108	7.30	33	30.56	761
	女	1,630	65	3.99	27	41.54	452
60～64	男	1,137	91	8.00	30	32.97	901
	女	1,186	64	5.40	31	48.44	531
65～69	男	590	42	7.12	13	30.95	649
	女	613	43	7.01	19	44.19	397
70～74	男	292	28	9.59	13	46.43	402
	女	362	24	6.63	15	62.50	282
75～	男	143	13	9.09	4	30.77	218
	女	138	13	9.42	8	61.54	157
男女別計	男	15,182	715	4.71	193	26.99	4251
	女	14,023	428	3.05	168	39.25	2472
合計		29,205	1,143	3.91	361	31.58	6723

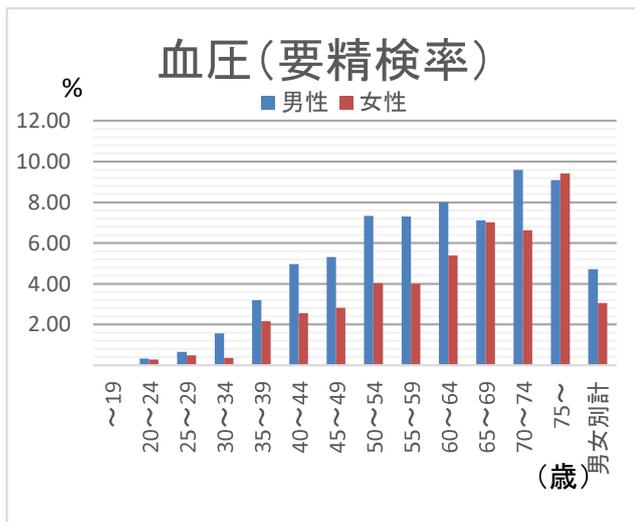


図3-1 血圧(要精検率)

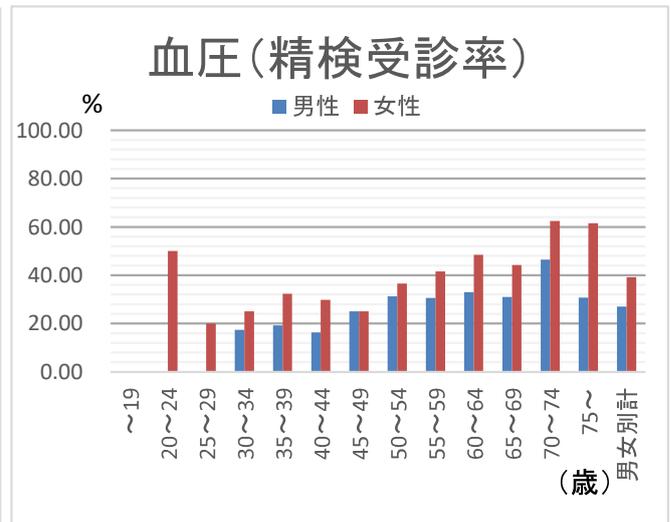


図3-2 血圧(精検受診率)

#### 4. 脂質検査(表4、図4-1、図4-2)

脂質検査を受けた総受診者数は29,227人であった。主な検査項目は総コレステロール、中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロールで、健診コースによってその組み合わせは異なる。

巻末付録1に各指導区分判定基準をの判定値を示したが、脂質検査は表中の判定値の中でいずれか1項目が該当した場合に「要精検」と判定され、高値、低値ともに判定基準に該当すると「要精検」と判定した。

問診票にて脂質異常症の治療中(服薬中)の記載がある者は4,425人で、受診者数(29,227人)に占める割合は15.1%であった。

性別・年代別要精検率をグラフに示した。全体の要精検率は約13.06%であった。男性の要精検率ピークは45～59歳代で18%を超えている。女性の要精検率は閉経が始まる50歳代から急激に増加し、ピークは55歳～64歳代の20%台で男性のピークより高くなっている。

精検受診率は、男性全体では26.20%、女性全体では40.16%で、70～74歳代を除く他の年代において女性が男性を上回った。

表4. 脂質検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	81	0				0
	女	31	0				0
20～24	男	677	34	5.02	13	38.24	2
	女	490	12	2.45	5	41.67	0
25～29	男	1,053	90	8.55	19	21.11	8
	女	792	33	4.17	12	36.36	6
30～34	男	1,146	127	11.08	18	14.17	22
	女	884	42	4.75	11	26.19	8
35～39	男	1,706	269	15.77	60	22.30	56
	女	1,523	81	5.32	32	39.51	19
40～44	男	1,970	340	17.26	86	25.29	133
	女	1,851	103	5.56	38	36.89	52
45～49	男	2,156	406	18.83	74	18.23	268
	女	2,060	195	9.47	67	34.36	95
50～54	男	1,941	364	18.75	95	26.10	370
	女	1,863	312	16.75	120	38.46	233
55～59	男	1,739	263	15.12	82	31.18	426
	女	1,623	330	20.33	130	39.39	438
60～64	男	1,530	190	12.42	76	40.00	476
	女	1,199	245	20.43	105	42.86	504
65～69	男	933	100	10.72	39	39.00	299
	女	656	126	19.21	63	50.00	355
70～74	男	493	37	7.51	20	54.05	196
	女	399	75	18.80	38	50.67	238
75～	男	260	17	6.54	4	23.53	100
	女	171	27	15.79	14	51.85	121
男女別計	男	15,685	2,237	14.26	586	26.20	2356
	女	13,542	1,581	11.67	635	40.16	2069
合計		29,227	3,818	13.06	1,221	31.98	4425

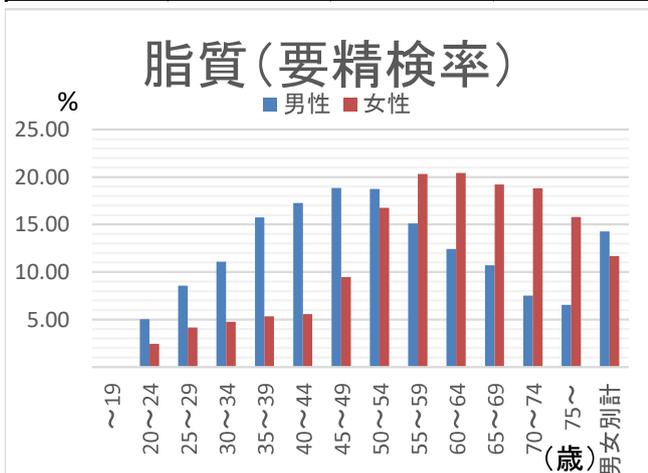


図4-1 脂質(要精検率)

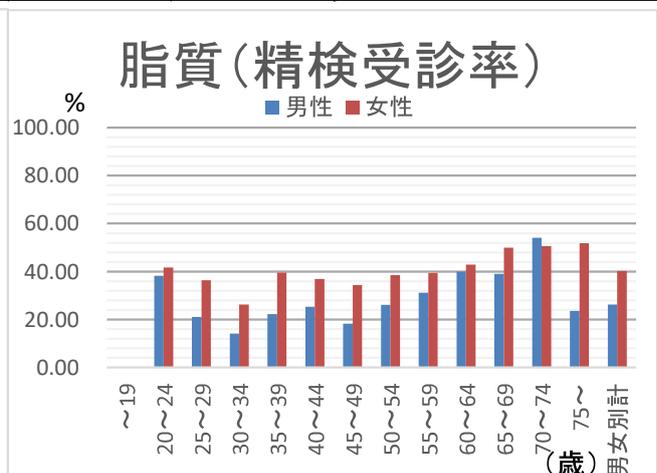


図4-2 脂質(精検受診率)

## 5. 肝機能検査(表5、図5-1、図5-2)

肝機能検査を受けた総受診者数は33,443人、うち男性が17,901人、女性は15,542人であった。要精検率は男性全体で18.34%、女性は4.84%で、男性がどの年代でも女性より高い。一方、精検受診率は男性で37.13%、女性は48.94%で、殆どの年代で女性が男性を上回っていた。精検受診率が最も高かったのは20~24歳の女性で71.43%で、次いで70~74歳女性が65.71%、70~74歳男性で62.96%であった。

表5. 肝機能検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中	(複数)
~19	男	81	8	9.88	3	37.50	0	0
	女	31	1	3.23	0	0.00	0	0
20~24	男	684	113	16.52	35	30.97	1	0
	女	490	14	2.86	10	71.43	0	0
25~29	男	1,066	197	18.48	58	29.44	3	0
	女	799	30	3.75	10	33.33	1	0
30~34	男	1,171	231	19.73	50	21.65	4	0
	女	894	37	4.14	14	37.84	1	0
35~39	男	1,768	404	22.85	118	29.21	11	0
	女	1,546	51	3.30	19	37.25	1	0
40~44	男	2,096	451	21.52	122	27.05	25	0
	女	1,905	76	3.99	32	42.11	2	1
45~49	男	2,409	524	21.75	195	37.21	29	0
	女	2,149	87	4.05	37	42.53	9	0
50~54	男	2,289	416	18.17	167	40.14	37	1
	女	2,088	132	6.32	59	44.70	11	0
55~59	男	2,122	376	17.72	161	42.82	49	2
	女	2,050	127	6.20	71	55.91	14	1
60~64	男	1,971	302	15.32	158	52.32	40	1
	女	1,676	100	5.97	59	59.00	27	1
65~69	男	1,213	157	12.94	88	56.05	24	1
	女	999	58	5.81	32	55.17	12	0
70~74	男	674	81	12.02	51	62.96	15	0
	女	627	35	5.58	23	65.71	10	0
75~	男	357	23	6.44	13	56.52	3	1
	女	288	4	1.39	2	50.00	4	0
男女別計	男	17,901	3,283	18.34	1,219	37.13	241	6
	女	15,542	752	4.84	368	48.94	92	3
合計		33,443	4,035	12.07	1,587	39.33	333	9

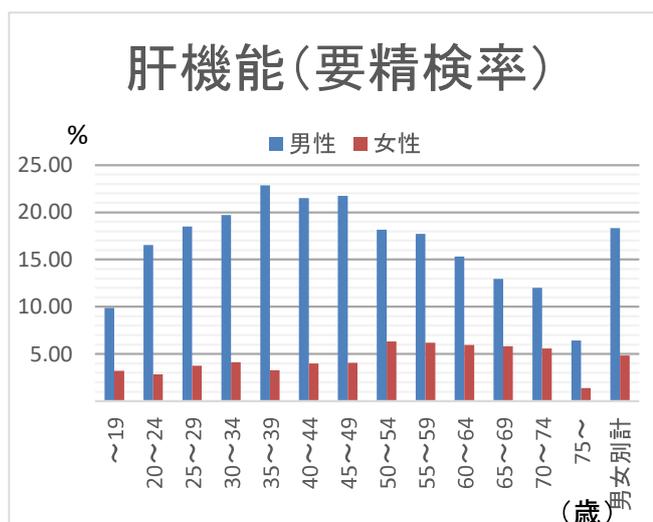


図5-1 肝機能(要精検率)

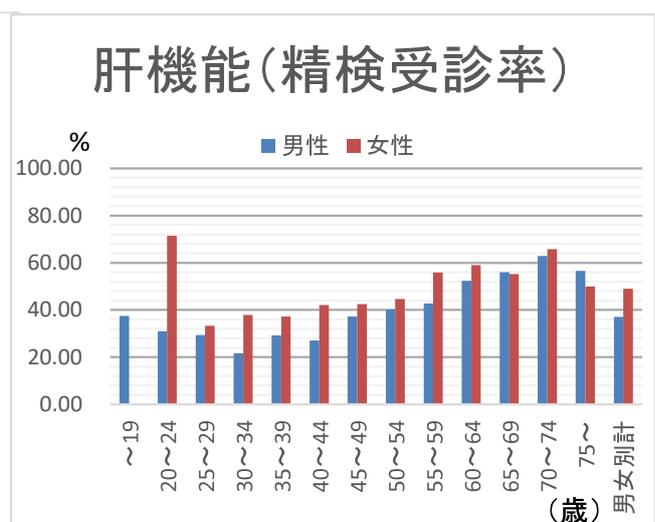


図5-2 肝機能(精検受診率)

## 6. B型肝炎検査(表6、図6-1、図6-2)

B型肝炎検査を受けた総受診者数は1,683人で、男性907人、女性776人で男性の方がやや多かった。

B型肝炎検査はHBs抗原検査で行っている。HBs抗原が(+)以上の場合を要精検と判定した。

総合問診票で慢性肝炎について治療中(服薬中)の記載がある者は、肝炎検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。服薬中と判定した人数は全体で3人(0.18%(3人/1,683人))であった。

受診対象者は協会けんぽでは一般健診を受診する35歳以上の人、並びに国保では40歳以上の人それぞれ生涯で一回限りの受診としている。組合健保や共済組合、事業所から依頼のあるものは検査項目にあらかじめ組み込まれているため、複数回の受診になっている。

要精検率は全体で0.42%、男性では0.44%、女性で0.39%とわずかに男性が女性より高かった。

精検受診率は全体で28.57%、男性で25.0%、女性で33.33%で女性が男性より高かった。

表6. B型肝炎検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	0	0				0
	女	0	0				0
20～24	男	4	0				0
	女	5	0				0
25～29	男	12	0				0
	女	22	0				0
30～34	男	34	0				0
	女	44	0				0
35～39	男	63	0				0
	女	68	0				0
40～44	男	94	0				0
	女	108	0				0
45～49	男	139	0				1
	女	145	1	0.69	0	0.00	0
50～54	男	163	0				0
	女	135	2	1.48	1	50.00	0
55～59	男	157	1	0.64	1	100.00	0
	女	116	0				0
60～64	男	154	3	1.95	0	0.00	0
	女	84	0				0
65～69	男	47	0				1
	女	29	0				1
70～74	男	25	0				0
	女	14	0				0
75～	男	15	0				0
	女	6	0				0
男女別計	男	907	4	0.44	1	25.00	2
	女	776	3	0.39	1	33.33	1
合計		1,683	7	0.42	2	28.57	3

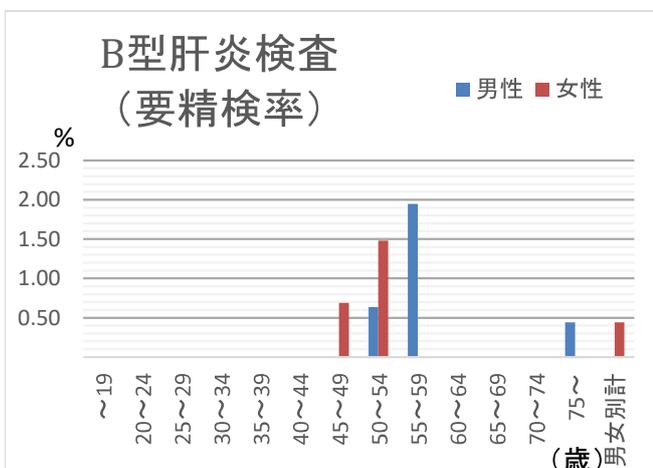


図6-1 B型肝炎検査(要精検率)

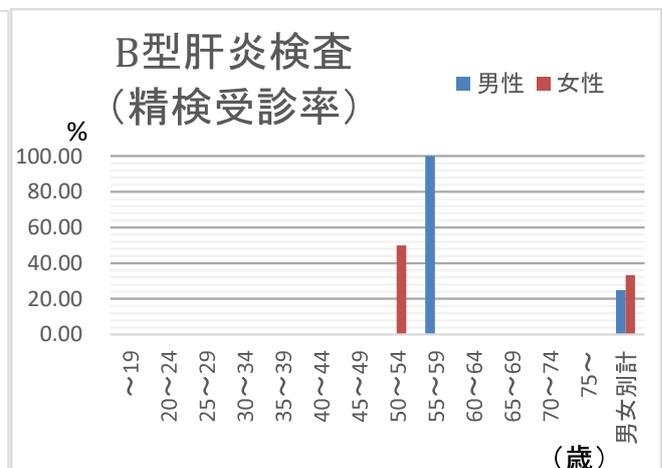


図6-2 B型肝炎(精検受診率)

## 7. C型肝炎検査(表7、図7-1、図7-2)

C型肝炎検査を受けた総受診者数は1,604人であった。

C型肝炎検査はHCV抗体検査で行っている。HCV抗体(+)以上の場合を要精検と判定した。

総合問診票で慢性肝炎について治療中(服薬中)の記載がある者は、肝炎検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。服薬中と判定した人数は全体で3人(0.19%(3人/1,604人))であった。

受診対象者は協会けんぽでは一般健診を受診する35歳以上の人、並びに国保では40歳以上の人それぞれ生涯で一回限りの受診としている。組合健保や共済組合、事業所から依頼のあるものは検査項目にあらかじめ組み込まれているため、複数回の受診になっている。

要精検率は全体で0.44%、男性で0.46%、女性で0.41%であった。

精検受診率は全体で28.57%、男性で25.0%、女性で33.33%であった。

表7. C型肝炎検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	0	0				0
	女	0	0				0
20～24	男	4	0				0
	女	5	0				0
25～29	男	9	0				0
	女	17	0				0
30～34	男	34	0				0
	女	43	0				0
35～39	男	63	0				0
	女	64	0				0
40～44	男	87	0				0
	女	100	0				0
45～49	男	131	0				1
	女	139	0				0
50～54	男	160	1	0.63	0	0.00	0
	女	128	0				0
55～59	男	149	1	0.67	1	100.00	0
	女	113	0				0
60～64	男	146	1	0.68	0	0.00	0
	女	80	0				0
65～69	男	46	1	2.17	0	0.00	1
	女	27	1	3.70	0	0.00	1
70～74	男	24	0				0
	女	14	1	7.14	0	0.00	0
75～	男	15	0				0
	女	6	1	16.67	1	100.00	0
男女別計	男	868	4	0.46	1	25.00	2
	女	736	3	0.41	1	33.33	1
合計		1,604	7	0.44	2	28.57	3

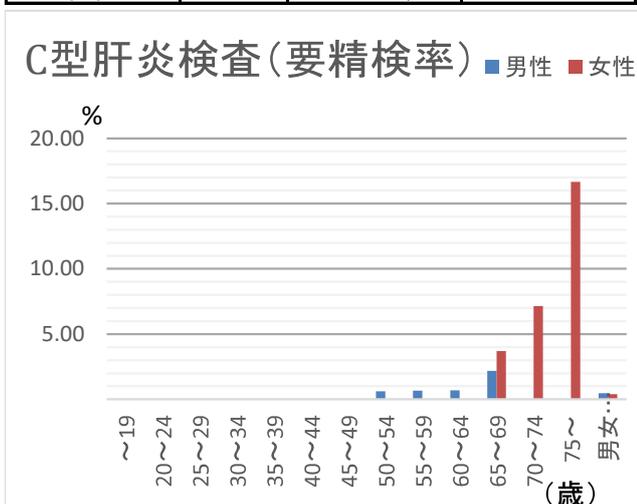


図7-1 C型肝炎検査(要精検率)

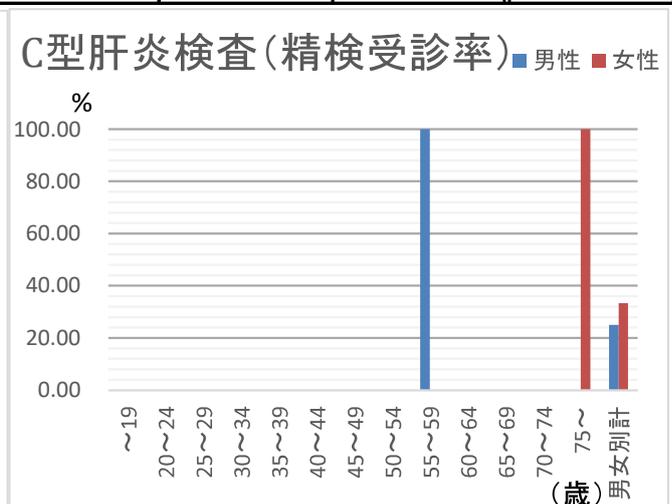


図7-2 C型肝炎検査(精検受診率)

## 8. 代謝1～ヘモグロビンA1c・空腹時血糖・尿糖～(表8、図8-1、図8-2)

代謝1の検査を受けた総受診者数は34,039人であった。

主な検査項目はヘモグロビンA1c(HbA1c)・空腹時血糖・尿糖で、健診コースによってその組み合わせは異なる。

総合問診票(巻末付録参照)で糖尿病の治療中(服薬中)の記載のあるものは、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。服薬中と判定した人数は1,818人(受診者数34,039人に占める割合は5.34%)であった。

全体の要精検率は3.05%、男性で4.05%、女性は1.91%であった。男性では年代を追うごとに要精検率が高くなっている。年代別では20～24歳代以外の年代全てで男性の要精検率が女性より高かった。

全体の精検受診率は41.08%、男性は37.57%、女性は49.51%であった。年代別で見ると、55～59歳代以降で精検受診率は男女ともに40%を超えるようになり、最も精検受診率が高かったのは70～74歳代の女性で79.31であった。44歳以降の精検受診率はどの年代でも女性が男性を上回っている。精検受診率は100%が望ましいが、男女ともに80%を超える年代はなかった。年1回の健診で要精検者となっても精密検査受診をしない傾向があるため、高血糖値の放置期間が長期になると糖尿病の重症化にもつながるため、受診勧奨が課題といえる。

表8. 代謝1(ヘモグロビンA1c・空腹時血糖・尿糖)

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	143	0				0
	女	78	0				1
20～24	男	910	2	0.22	0	0.00	5
	女	708	3	0.42	2	66.67	4
25～29	男	1,359	12	0.88	5	41.67	8
	女	1,028	0				6
30～34	男	1,484	26	1.75	3	11.54	14
	女	1,108	3	0.27	0	0.00	6
35～39	男	1,826	37	2.03	9	24.32	42
	女	1,587	11	0.69	3	27.27	17
40～44	男	2,089	61	2.92	20	32.79	70
	女	1,893	24	1.27	7	29.17	21
45～49	男	2,377	94	3.95	23	24.47	117
	女	2,142	26	1.21	7	26.92	31
50～54	男	2,203	114	5.17	27	23.68	176
	女	2,046	34	1.66	13	38.24	63
55～59	男	2,015	110	5.46	44	40.00	218
	女	1,991	46	2.31	22	47.83	88
60～64	男	1,758	113	6.43	52	46.02	278
	女	1,621	63	3.89	35	55.56	93
65～69	男	1,048	72	6.87	40	55.56	190
	女	931	52	5.59	30	57.69	82
70～74	男	554	58	10.47	34	58.62	136
	女	592	29	4.90	23	79.31	48
75～	男	287	33	11.50	18	54.55	73
	女	261	14	5.36	9	64.29	31
男女別計	男	18,053	732	4.05	275	37.57	1327
	女	15,986	305	1.91	151	49.51	491
合計		34,039	1,037	3.05	426	41.08	1818

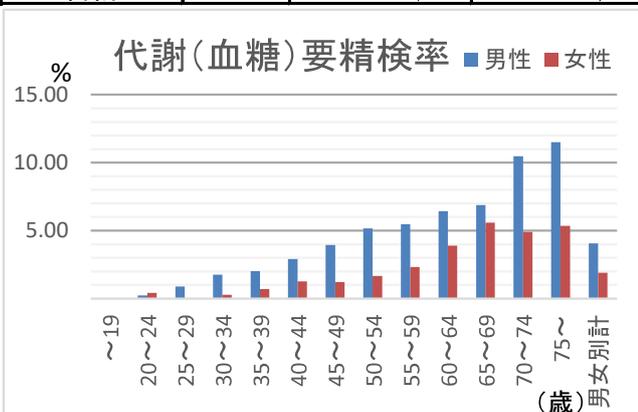


図8-1代謝(血糖)要精検率

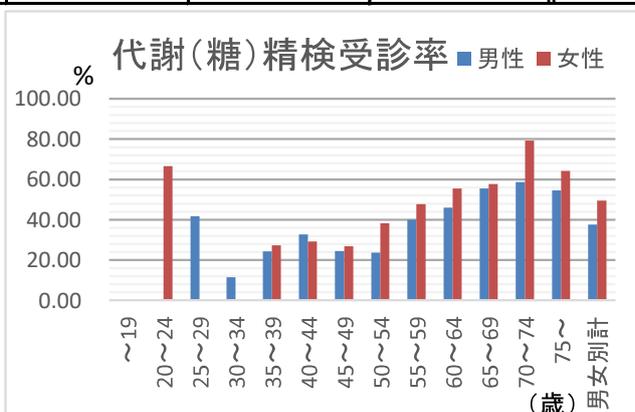


図8-2代謝(糖)精検受診率

### 9. 代謝2～尿酸～(表9、図9-1、図9-2)

代謝(尿酸)の検査を受けた総受診者数は23,224人であった。

総合問診票(巻末)で高尿酸血症の治療中(服薬中)の記載のあるものは、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。服薬中と判定した人数は990人で総受診者数23,224人に占める割合は4.26%であった。

全体の要精検者数は996人、男性938人、女性58人で、男性が女性の16倍に及んだ。全体の要精検率は4.29であった。

要精検率を男女別にみると、男性では7.81%、女性では0.52%であった。年代別に見ると、男性では若い年代に要精検率が高く、女性では年代による偏りは見られなかった。

全体の精検受診率は29.92%と低く、男性では28.89%、女性では46.55%であり共に50%を超えなかった。男性の精検受診率は20%～72.22%の範囲にとどまり、50%を超えたのは65～69歳代で51.28%と、70～74歳代の72.2%だけであった。女性の精検受診率は12.5%～100%の範囲にあり、50%を超えたのは50～54歳代の53.85%、65～69歳代の66.67%、75歳以上の100%であった。若い年代において精検受診率が特に低い傾向にあることから、要精検者の精検受診率を高めることが課題である。

表9. 代謝2～尿酸～

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	7	1	14.29	0	0.00	0
	女	1	0				0
20～24	男	112	16	14.29	2	12.50	0
	女	104	0				0
25～29	男	219	22	10.05	5	22.73	1
	女	230	3	1.30	1	33.33	0
30～34	男	248	20	8.06	2	10.00	4
	女	331	0				0
35～39	男	1,428	157	10.99	45	28.66	34
	女	1,310	1	0.08	0	0.00	0
40～44	男	1,685	151	8.96	24	15.89	94
	女	1,539	3	0.19	1	33.33	2
45～49	男	1,833	172	9.38	48	27.91	128
	女	1,730	12	0.69	5	41.67	2
50～54	男	1,754	138	7.87	43	31.16	170
	女	1,622	13	0.80	7	53.85	4
55～59	男	1,653	111	6.72	31	27.93	174
	女	1,593	10	0.63	6	60.00	7
60～64	男	1,504	88	5.85	37	42.05	180
	女	1,338	12	0.90	4	33.33	11
65～69	男	940	39	4.15	20	51.28	106
	女	811	3	0.37	2	66.67	2
70～74	男	551	18	3.27	13	72.22	60
	女	545	0				2
75～	男	76	5	6.58	1	20.00	9
	女	60	1	1.67	1	100.00	0
男女別計	男	12,010	938	7.81	271	28.89	960
	女	11,214	58	0.52	27	46.55	30
合計		23,224	996	4.29	298	29.92	990

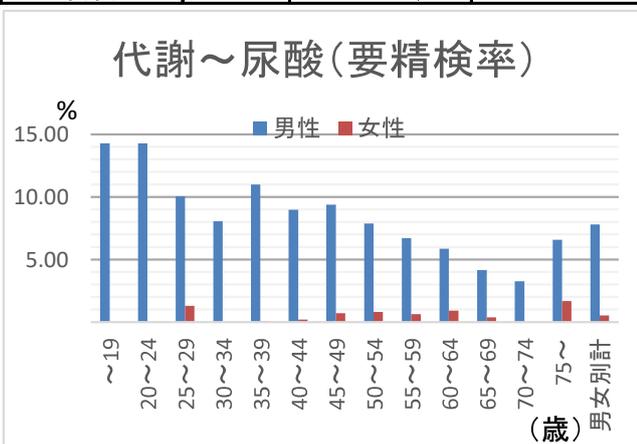


図9-1 代謝～尿酸(要精検率)

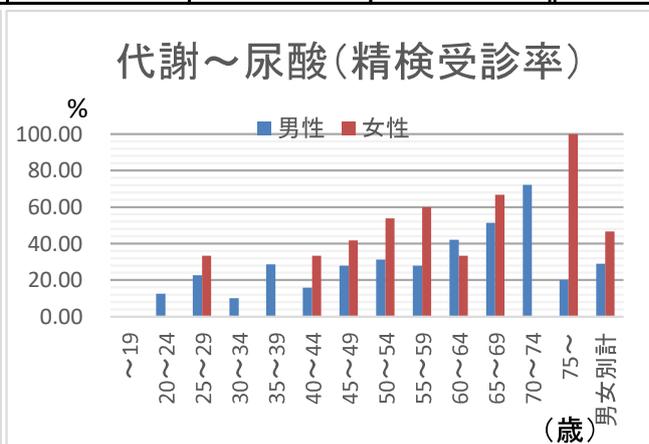


図9-2 代謝～尿酸(精検受診率)

### 10. 血液一般(表10、図10-1、図10-2)

血液一般の検査を受けた総受診者数は32,611人で、男性は17,824人、女性は14,787人で男性の受診者数が女性より多かった。

主な検査項目は白血球数・赤血球数・ヘモグロビンで、健診コースによってその組み合わせは異なる。総合問診票より貧血の治療中(服薬中)の記載があるものは、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。治療中(服薬中)と判定した人は202人で、男性が20人、女性が182人で女性が男性より多く、女性の45～49歳では58人と最も多かった。

巻末付録の指導区分判定基準表に示した中で、いずれか一項目が要精検基準に該当した場合に「要精検」と判定される。要精検率は全体で6.02、男性では5.01、女性は7.23であった。男性の要精検率は19歳以下の11.11が最も高く、次いで25～29歳の6.68、30～34歳の6.12となっている。女性の要精検率は45～49歳の9.65が最も高く、次いで50～54歳の8.85、40～44歳の8.27となっている。

精検受診率は全体で41.64と50%に達しなかった。男性では35.72%、女性では46.59%であった。

男性では19歳以下の55.56%が最も高く、次いで70～74歳の53.13%、55～59歳の48.62であり、最も低かったのは75歳以上の14.29%であった。女性の精検受診率は70～74歳の75.00%が最も高く、次いで75歳以上の60.00%、65～69歳の58.14%であった。

表10. 血液一般

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中
～19	男	81	9	11.11	5	55.56	0
	女	31	1	3.23	0	0.00	0
20～24	男	690	35	5.07	15	42.86	0
	女	488	31	6.35	16	51.61	6
25～29	男	1,063	71	6.68	19	26.76	1
	女	799	47	5.88	23	48.94	2
30～34	男	1,176	72	6.12	18	25.00	0
	女	886	55	6.21	19	34.55	6
35～39	男	1,774	84	4.74	26	30.95	0
	女	1,535	114	7.43	38	33.33	10
40～44	男	2,112	110	5.21	26	23.64	1
	女	1,813	150	8.27	71	47.33	29
45～49	男	2,436	126	5.17	32	25.40	1
	女	2,052	198	9.65	77	38.89	58
50～54	男	2,318	105	4.53	44	41.90	1
	女	1,978	175	8.85	86	49.14	42
55～59	男	2,166	109	5.03	53	48.62	4
	女	1,958	143	7.30	76	53.15	15
60～64	男	2,002	92	4.60	44	47.83	3
	女	1,629	83	5.10	46	55.42	3
65～69	男	1,215	41	3.37	19	46.34	5
	女	945	43	4.55	25	58.14	4
70～74	男	674	32	4.75	17	53.13	3
	女	602	24	3.99	18	75.00	6
75～	男	117	7	5.98	1	14.29	1
	女	71	5	7.04	3	60.00	1
男女別計	男	17,824	893	5.01	319	35.72	20
	女	14,787	1,069	7.23	498	46.59	182
合計		32,611	1,962	6.02	817	41.64	202

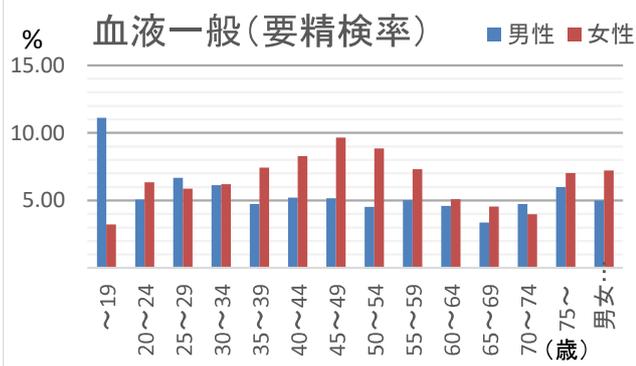


図10-1 血液一般(要精検率)

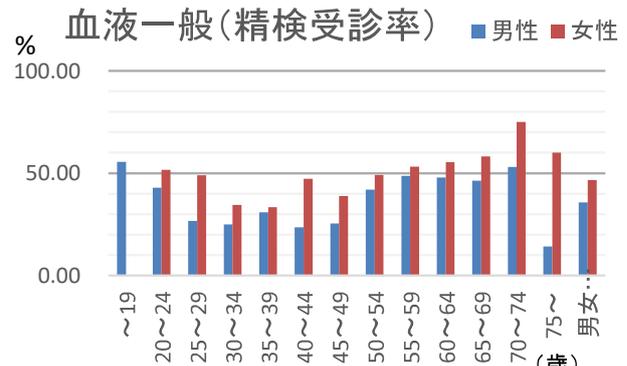


図10-2 血液一般(精検受診率)

### 11. 尿一般検査(表11、図11-1、図11-2)

尿一般検査の主な検査項目は、潜血・蛋白・ウロビリノーゲン・沈査で、健診コースによってその組み合わせは異なる。

巻末記録1に各指導区分判定基準の判定値を示した。表中の判定値の中で、いずれか1項目が該当した場合に要精検と判定される。

腎臓病の治療中(服薬中)の記載があるものは、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。服薬中と判定した人は57人で、全体の0.16%(57人/36,040人)であった。人工透析の記載があり、尿が出にくい受診者には尿検査は実施していない。

尿一般検査を受けた受診者数は36,040人で、男性が19,507人、女性は16,533人であった。

要精検者数は3,238人で、要精検率は8.98%、男性では8.58%、女性では9.46%であった。年代別にみると男女ともに60歳以上で10%を超え、最も高かったのは男性の75歳以上で20.28%であった。

精検受診者数は1,545人で、精検受診率は47.71%、男性では41.76%、女性では54.09%であった。年代別にみると最も高かったのは女性70~74歳の75.70%、次いで女性75歳以上の73.17%、女性65~69歳の66.41%であった。男性で最も精検受診率が高かったのは70~74歳の62.71%で、若い年代ほど精検受診率は低くなった。

表11 尿一般検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中	(複数)
~19	男	146	5	3.42	1	20.00	0	0
	女	79	4	5.06	1	25.00	0	0
20~24	男	921	62	6.73	17	27.42	1	0
	女	729	35	4.80	19	54.29	0	0
25~29	男	1,408	50	3.55	11	22.00	1	0
	女	1,051	61	5.80	23	37.70	2	0
30~34	男	1,522	65	4.27	14	21.54	1	0
	女	1,121	65	5.80	19	29.23	1	0
35~39	男	1,897	101	5.32	27	26.73	3	0
	女	1,617	106	6.56	49	46.23	1	0
40~44	男	2,186	166	7.59	53	31.93	1	0
	女	1,925	191	9.92	90	47.12	2	0
45~49	男	2,512	202	8.04	63	31.19	7	0
	女	2,180	213	9.77	93	43.66	1	0
50~54	男	2,389	225	9.42	98	43.56	3	0
	女	2,109	238	11.28	119	50.00	3	0
55~59	男	2,233	215	9.63	108	50.23	4	0
	女	2,074	198	9.55	125	63.13	5	0
60~64	男	2,024	234	11.56	109	46.58	6	0
	女	1,710	177	10.35	112	63.28	2	0
65~69	男	1,230	159	12.93	82	51.57	4	0
	女	1,010	128	12.67	85	66.41	2	0
70~74	男	684	118	17.25	74	62.71	1	0
	女	639	107	16.74	81	75.70	1	0
75~	男	355	72	20.28	42	58.33	3	0
	女	289	41	14.19	30	73.17	2	0
男女別計	男	19,507	1,674	8.58	699	41.76	35	0
	女	16,533	1,564	9.46	846	54.09	22	0
合計		36,040	3,238	8.98	1,545	47.71	57	0

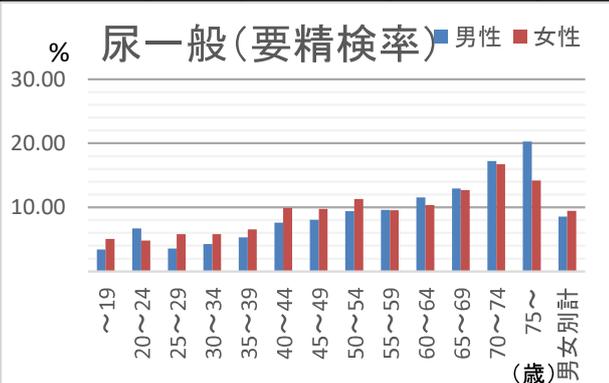


図11-1 尿一般検査要精検率

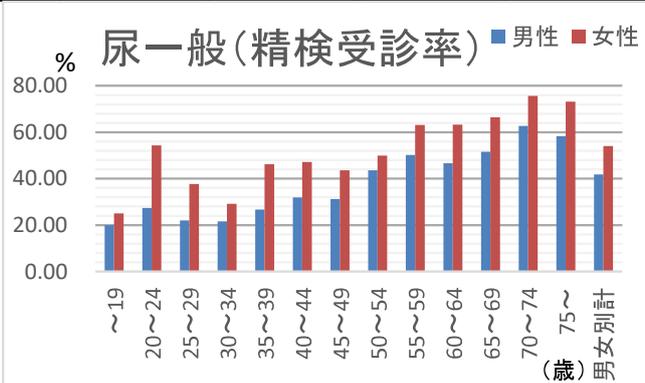


図11-2 尿一般検査精検受診率

## 12. 心電図検査(表12-1、表12-2、図12-1、図12-2)

心電図検査を受けた受診者数は31,831人、男性は17,158人、女性は14,673人であった。

心臓病の治療中(服薬中)の記載がある者は、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。治療中(服薬中)と判定した人数は628人、男性が481人、女性が147人で、男女合わせ受診者数の1.97%(628人/31,831人)を占めた。

要精検者数は356人で、要精検率は1.12%(356人/31,831人)であった。男性では1.24%、女性では0.97%となり、年代別に見ると男女ともに75歳以上での要精検率が最も高かった。

全体の精検受診率は52.53%(187人/356人)、男性では48.36%、女性では58.74%で、男性より女性の精検受診率が10%ほど高かった。

年代別にみると、男性の精検受診率では60~64歳の65.00%が最も高く、次いで65~69歳の63.64%、75歳以上の61.54%であった。

女性の精検受診率では75歳以上が100%で最も高く、次いで65~69歳の72.73%、60~64歳の72.22%であった。

表12-1心電図検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中	(複数)
~19	男	71	0				0	0
	女	23	0				0	0
20~24	男	638	3	0.47	2	66.67	1	0
	女	458	0				1	0
25~29	男	991	5	0.50	1	20.00	3	0
	女	747	3	0.40	1	33.33	1	0
30~34	男	1,097	0				6	0
	女	852	5	0.59	3	60.00	0	0
35~39	男	1,754	6	0.34	1	16.67	8	0
	女	1,527	6	0.39	4	66.67	2	0
40~44	男	2,066	11	0.53	4	36.36	25	1
	女	1,812	11	0.61	5	45.45	9	0
45~49	男	2,398	18	0.75	7	38.89	24	0
	女	2,084	13	0.62	5	38.46	11	1
50~54	男	2,245	36	1.60	12	33.33	61	5
	女	1,982	23	1.16	12	52.17	18	0
55~59	男	2,086	31	1.49	12	38.71	78	1
	女	1,929	23	1.19	14	60.87	32	1
60~64	男	1,910	40	2.09	26	65.00	90	6
	女	1,582	18	1.14	13	72.22	32	1
65~69	男	1,131	33	2.92	21	63.64	87	2
	女	938	22	2.35	16	72.73	13	0
70~74	男	602	17	2.82	9	52.94	75	6
	女	595	13	2.18	5	38.46	19	0
75~	男	169	13	7.69	8	61.54	23	1
	女	144	6	4.17	6	100.00	9	0
男女別計	男	17,158	213	1.24	103	48.36	481	22
	女	14,673	143	0.97	84	58.74	147	3
合計		31,831	356	1.12	187	52.53	628	25

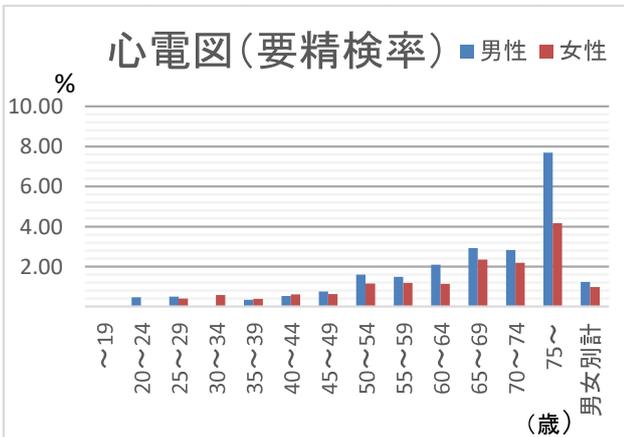


図12-1 心電図検査要精検率

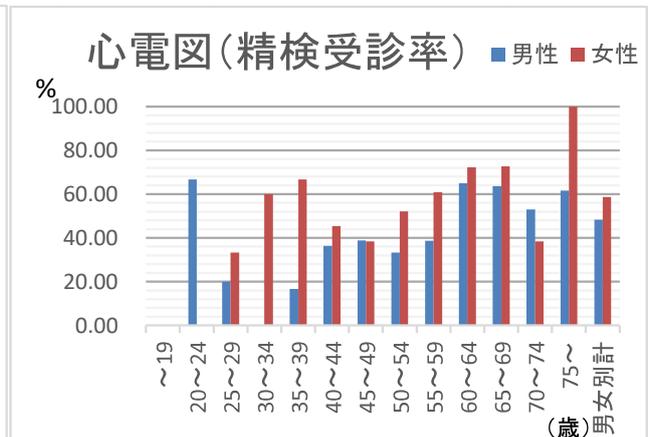


図12-2 心電図検査精検受診率

表12-2 心電図検査要精検者所見別一覧

	男	女	計
心房細動(+頻脈、心室期外収縮、陰性T波、ST低下も含む)	34	6	40
ST低下+陰性T波(+QS型も含む)	28	18	46
異常Q波(+陰性T波、ST低下、心室期外収縮も含む)	25	19	44
陰性T波(+上室性期外収縮、左室肥大も含む)	24	15	39
QS型(+陰性T波、ST低下も含む)	20	14	34
ST低下(+心室期外収縮、左室肥大も含む)	18	29	47
心室期外収縮(多発性、二連発、多源性、blockedも含む)	12	9	21
Brugada型心電図(疑いも含む)	11	0	11
(不)完全右脚ブロック+左軸偏位	7	0	7
(完全)(間欠性)左脚ブロック(+QS型、異常Q波、心室期外収縮も含む)	6	4	10
洞性徐脈(40拍/分以下)	5	0	5
(間欠的)WPW症候群	3	2	5
ST上昇(+陰性T波も含む)	3	1	4
上室期外収縮(多発性、連発も含む)	2	3	5
洞性頻脈(120拍/分以上)	2	0	2
洞房ブロック	2	0	2
低電位	1	16	17
Ⅱ度房室ブロック	1	1	2
心房粗動	1	0	1
完全房室ブロック	1	0	1
2:1房室ブロック	1	0	1
その他	6	6	12
計	213	143	356

表12-2に心電図検査で要精検と判断した所見別の一覧を示した。男女計ではST低下(+心室期外収縮、左室肥大も含む)、ST低下+陰性T波(+QS型も含む)、異常Q波(+陰性T波、ST低下、心室期外収縮も含む)、心房細動(+頻脈、心室期外収縮、陰性T波、ST低下も含む)、陰性T波(+上室期外収縮、左室肥大も含む)の順に多かった。

男性では、心房細動(+頻脈、心室期外収縮、陰性T波、ST低下も含む)が15.96%(34人/213人)、女性ではST低下(+心室期外収縮、左室肥大も含む)が20.28%(29人/143人)で最も多かった。

男女差が大きいのは心房細動(+頻脈、心室期外収縮、陰性T波、ST低下も含む)が男性34人/女性6人、低電位が男性1人/女性16人であった。また、Brugada型心電図(疑いも含む)も3.09%(11人/356人)(内訳男性11人/女性0人)であった。

### 13. 眼底検査(表13、図13)

眼底検査を受けた受診者数は4,972人で、男性は2,876人、女性は2,096人であった。

白内障や緑内障、その他眼科で治療中(服薬中)の記載があるものは、検査を行っても治療中(服薬中)として集計した。治療中(服薬中)と判定した人は334人で、男性が174人、女性が160人であった。

要精検者数は1,405人で、要精検率は28.26%であった。男性では808人(28.09%)、女性は597人(28.48%)が要精検となり、要精検率に男女差はみられなかった。

全体の精検受診率は51.17%、男性では44.93%、女性では59.63%で男性より女性の方が高かった。

表13-1 眼底検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	服薬中	(複数)
~19	男	0	0				0	0
	女	0	0				0	0
20~24	男	5	0				0	0
	女	4	0				0	0
25~29	男	20	2	10.00	1	50.00	0	0
	女	11	3	27.27	2	66.67	0	0
30~34	男	44	4	9.09	2	50.00	0	0
	女	35	11	31.43	9	81.82	0	0
35~39	男	181	31	17.13	15	48.39	4	0
	女	134	24	17.91	15	62.50	4	0
40~44	男	403	84	20.84	38	45.24	4	0
	女	299	83	27.76	45	54.22	7	0
45~49	男	391	91	23.27	39	42.86	7	0
	女	300	76	25.33	35	46.05	8	0
50~54	男	541	149	27.54	63	42.28	12	5
	女	400	107	26.75	63	58.88	11	0
55~59	男	411	119	28.95	54	45.38	28	3
	女	305	85	27.87	46	54.12	19	2
60~64	男	393	125	31.81	55	44.00	31	2
	女	246	61	24.80	40	65.57	23	0
65~69	男	241	87	36.10	41	47.13	34	2
	女	176	62	35.23	39	62.90	24	2
70~74	男	181	77	42.54	36	46.75	40	6
	女	142	64	45.07	48	75.00	50	2
75~	男	65	39	60.00	19	48.72	14	0
	女	44	21	47.73	14	66.67	14	2
男女別計	男	2,876	808	28.09	363	44.93	174	18
	女	2,096	597	28.48	356	59.63	160	8
合計		4,972	1,405	28.26	719	51.17	334	26

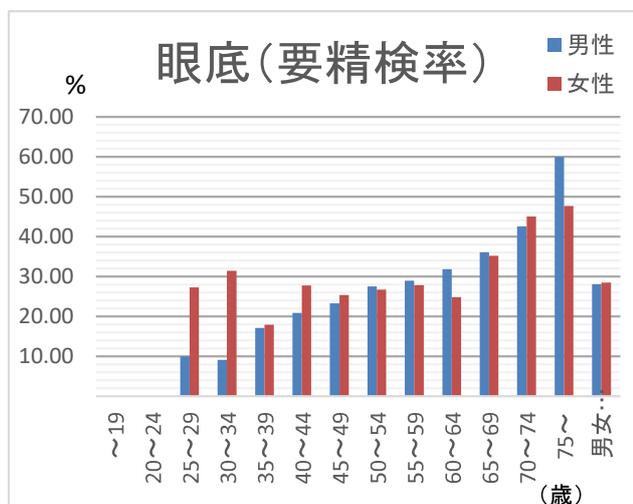


図13-1 眼底検査要精検率

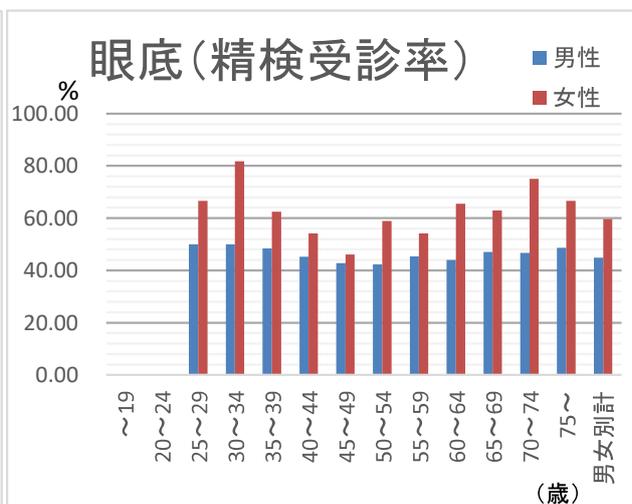


図13-2 眼底検査精検受診率

表13-2に2022年度眼底検査要精密検査者所見別一覧(重複あり)を示した。要精検となった所見では視神経乳頭陥凹が最も多く、要精検者1,405人中の76.65%(1,077人/1,405人)であった。次に多いのが中間透光帯混濁の10.46%(147人/1,405人)であった。この2つで所見全体(1,608件)中の76.12%(1,077+147人/1,608件)を占めていた。

表13-2 2022年度眼底検査要精密検査者所見別一覧(重複あり)

所見名	男	女	計	要精査全所見に占める割合(%)	
視神経乳頭陥凹	592	485	1077	66.98	76.12
中間透光帯混濁	95	52	147	9.14	
眼底出血・視神経乳頭出血	61	35	96	5.97	
黄斑変性	52	14	66	4.10	
黄斑前膜	21	7	28	1.74	
黄斑前膜・上膜(疑い含む)	30	32	62	3.86	
動脈硬化性変化	23	12	35	2.18	
高血圧性変化	23	6	29	1.80	
糖尿病性網膜症・糖尿病性変化	5	2	7	0.44	
白斑	5	1	6	0.37	
傾斜乳頭	9	2	11	0.68	
網脈絡膜萎縮	3	11	14	0.87	
網膜静脈(分枝)閉塞症(陳旧性含む)	8	1	9	0.56	
その他	12	9	21	1.31	
計	939	669	1608	100.00	

## 14. 肺機能検査

表14-1) 肺機能検査(喫煙指数を400で区切ったもの)

年齢	性別	受診者数	喫煙係数400未満					喫煙係数400以上				
			指導区分1	指導区分2	軽度異常率%	指導区分3	経過観察率%	指導区分1	指導区分2	軽度異常率%	指導区分3	経過観察率%
~19	男	0										
	女	0										
20~24	男	0										
	女	1										
25~29	男	17	5									
	女	6										
30~34	男	42	14									
	女	20	3									
35~39	男	84	42	2	2.38			1				
	女	64	10	1	1.56							
40~44	男	280	137	9	3.21	1	0.36	47	1	0.36		
	女	180	68	1	0.56			4	1	0.56		
45~49	男	232	99	2	0.86			68				
	女	160	36	3	1.88			8				
50~54	男	369	140	8	2.17			118	14	3.79	1	0.27
	女	257	60	2	0.78			15	1	0.39	1	0.39
55~59	男	255	84	7	2.75			99	12	4.71	1	0.39
	女	159	37	4	2.52			10	1	0.63		
60~64	男	259	68	3	1.16			126	18	6.95	2	0.77
	女	176	26	1	0.57			7	2	1.14		
65~69	男	180	41	5	2.78			78	14	7.78	1	0.56
	女	148	17	1	0.68			7	1	0.68		
70~74	男	169	36	13	7.69			61	21	12.43	6	3.55
	女	134	10					4	1	0.75		
75~	男	30	9					8	3	10.00	1	3.33
	女	16	1					1				
男女別計	男	1,917	675	49	2.56	1	0.05	606	83	4.33	12	0.63
	女	1,321	268	13	0.98	0		56	7	0.53	1	0.08
合計		3,238	943	62	1.91	1	0.03	662	90	2.78	13	0.40

表14-1)に肺機能検査を受けた総受診者数3,238人を喫煙指数400未満と400以上に分けて示した。喫煙指数は巻末付録2の総合問診票で把握しており、喫煙指数400未満には喫煙歴なしの者も含まれる。

肺機能の判定は%肺活量及び1秒率を基に判定される。%肺活量は年齢・性別から算出された予測肺活量に対する実測値の比率を示し、80%未満で拘束性障害と判定される。1秒率は70%未満で閉塞性障害と判定される。拘束性障害または閉塞性障害のどちらかがあった場合に「軽度異常」と判定している。拘束性障害及び閉塞性障害の両方があった場合は混合性障害となり「要観察」と判定した。

図14-1)①に性別・年代別軽度異常・要観察率(喫煙指数400未満)を示す。全体の有所見者は少なく、70~74歳の男性「軽度異常」7.69が最も高かったほか、女性の「軽度異常」所見者も見られる。

図14-1)②に性別・年代別軽度異常・要観察率(喫煙指数400以上)を示す。男性の有所見率が年齢と共に高くなっており、最も高かったのは70~74歳「軽度異常」12.43であった。女性の有所見者は男性に比べ少なかった。喫煙指数と肺機能の関係がうかがわれた。

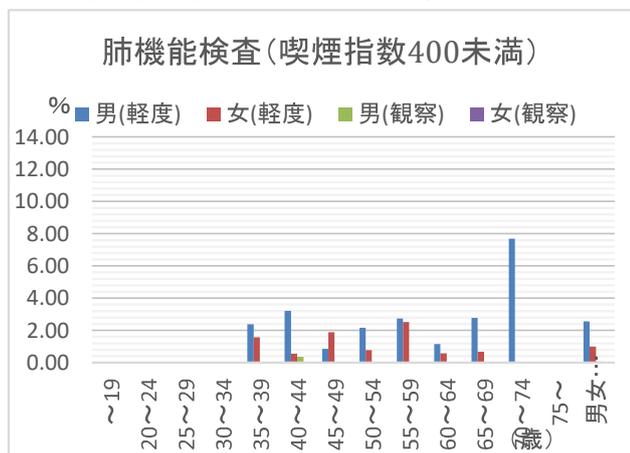


図14-1)①肺機能検査(喫煙指数400未満)

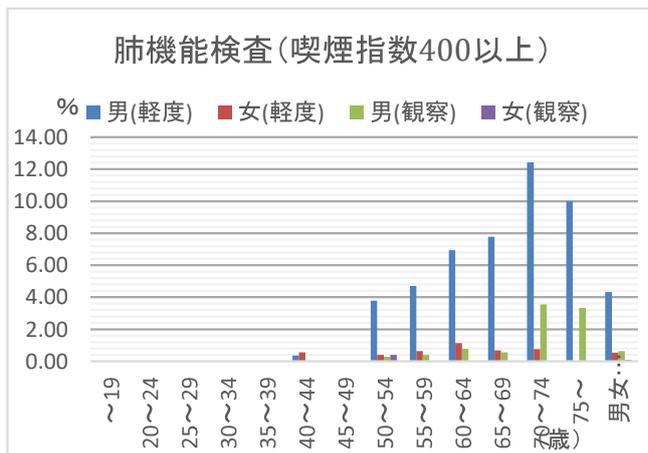


図14-1)②肺機能検査(喫煙指数400以上)

表14-2)肺機能検査(喫煙指数を600で区切ったもの)

年齢	性別	受診者数	喫煙係数600未満					喫煙係数600以上				
			指導区分1	指導区分2	軽度異常率%	指導区分3	経過観察率%	指導区分1	指導区分2	軽度異常率%	指導区分3	経過観察率%
~19	男	0										
	女	0										
20~24	男	0										
	女	1										
25~29	男	17	5									
	女	6										
30~34	男	42	14									
	女	20	3									
35~39	男	84	43	2	2.38							
	女	64	10	1	1.56							
40~44	男	280	178	10	3.57	1	0.36	6				
	女	180	72	2	1.11							
45~49	男	232	154	2	0.86			13				
	女	160	43	3	1.88			1				
50~54	男	369	210	14	3.79	1	0.27	48	8	2.17		
	女	257	69	3	1.17	1	0.39	6				
55~59	男	255	126	14	5.49			57	5	1.96	1	0.39
	女	159	44	5	3.14			3				
60~64	男	259	116	10	3.86	2	0.77	78	11	4.25		
	女	176	31	2	1.14			2	1	0.57		
65~69	男	180	69	9	5.00			50	10	5.56	1	0.56
	女	148	21	2	1.35			3				
70~74	男	169	53	17	10.06	2	1.18	44	17	10.06	4	2.37
	女	134	13	1	0.75			1				
75~	男	30	11	1	3.33			6	2	6.67	1	3.33
	女	16	2									
男女別計	男	1,917	979	79	4.12	6	0.31	302	53	2.76	7	0.37
	女	1,321	308	19	1.44	1	0.08	16	1	0.08	0	0
合計		3,238	1,287	98		7		318	54		7	

表14-2)に肺機能検査を受けた3,238人を喫煙指数600で区切ったものを示した。喫煙指数600未満には喫煙歴なしの者も含まれる。喫煙指数600以上は肺がん検診の喀痰検査の該当となる。

図14-2)①に性別・年代別軽度異常・要観察率(喫煙指数600未満)を示した。前頁の喫煙指数400未満のそれに比べ有所見率が多くなり、特に男性の「軽度異常」が高くなっている。

図14-2)②に性別・年代別軽度異常・要観察率(喫煙指数600以上)を示した。喫煙指数600で区切った場合、男性の有所見率において「経過観察」の割合も高く見られ、女性の有所見者は見られなかった。

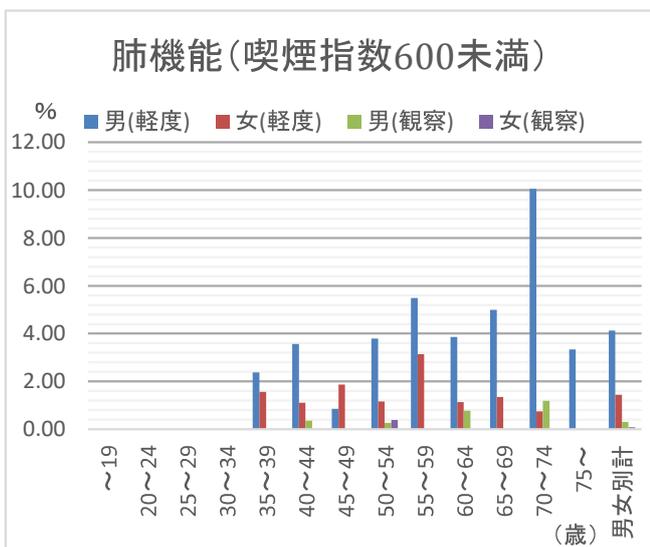


図14-2)①肺機能検査(喫煙指数600未満)

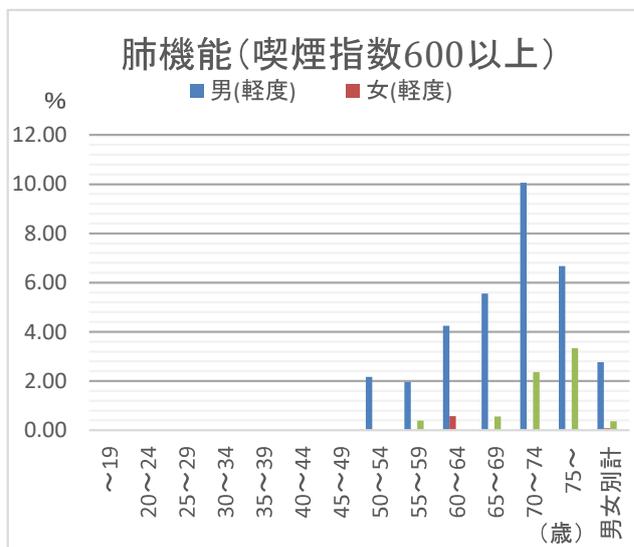


図14-2)②肺機能検査(喫煙指数600以上)

### 15. 腹部超音波検査(肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓)(表15、図15-1、図15-2)

腹部超音波検査(肝臓)・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓)を受けた受診者数は4,982人であった。

腹部超音波検査を実施するときは、担当技師が受診者の前回所見の有無を事前に検索し、検査当日は総合問診票に記載されている既往歴等も参考に検査を行い、技師レポートを作成する。判定時にはこれらの情報が判定医にも伝達され、判定医は巻末付録にある「腹部超音波所見の判定及び事後指導区分」を参考に判定を行っている。

図15-1に性別年代別の要精検率を示した。全体の要精検率は9.90%(493人/4,982人)で、男性は10.13%、女性が9.60%隣、女性に比べて男性の方がやや高かった。

図15-2に性別年代別の精検受診率を示した。全体の精検受診率は62.47%(308人/493人)で、男性が56.79%、女性は69.95%で、男性に比べて女性の方がほぼすべての年代で高い傾向にあった。

**表15 腹部超音波検査**

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率
～19	男	0	0			
	女	0	0			
20～24	男	4	0			
	女	4	0			
25～29	男	22	2	9.09	1	50.00
	女	12	1	8.33	1	100.00
30～34	男	46	1	2.17	1	100.00
	女	35	2	5.71	2	100.00
35～39	男	148	11	7.43	7	63.64
	女	113	13	11.50	9	69.23
40～44	男	367	41	11.17	24	58.54
	女	309	27	8.74	20	74.07
45～49	男	347	35	10.09	15	42.86
	女	319	25	7.84	13	52.00
50～54	男	509	44	8.64	24	54.55
	女	393	29	7.38	21	72.41
55～59	男	398	29	7.29	18	62.07
	女	321	32	9.97	21	65.63
60～64	男	407	46	11.30	29	63.04
	女	288	30	10.42	21	70.00
65～69	男	262	34	12.98	19	55.88
	女	220	26	11.82	21	80.77
70～74	男	211	30	14.22	20	66.67
	女	181	27	14.92	19	70.37
75～	男	42	7	16.67	1	14.29
	女	24	1	4.17	1	100.00
男女別計	男	2,763	280	10.13	159	56.79
	女	2,219	213	9.60	149	69.95
合計		4,982	493	9.90	308	62.47

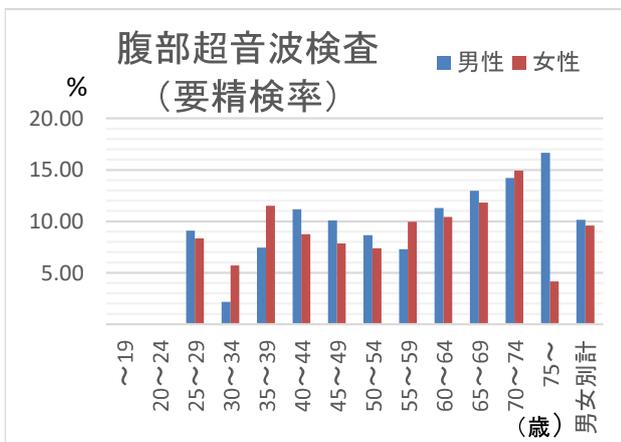


図15-1 腹部超音波検査要精検率

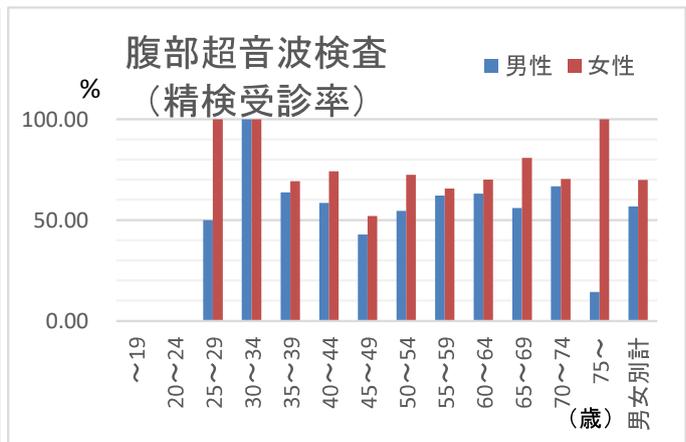


図15-2 腹部超音波検査精検受診率

表15-2 2022年度腹部超音波検査要精査所見内訳(重複あり)

肝臓	男	女	計	胆嚢	男	女	計	腎臓	男	女	計
肝血管腫疑い	45	53	98	胆嚢腺筋腫症 (疑い含む)	38	12	50	腎盂拡張 (疑い・軽度含む)	15	16	31
肝腫瘤疑い	45	19	64	胆嚢壁肥厚	31	18	49	腎腫瘤(疑い含む)	12	8	20
肝表面不正	3	0	3	胆嚢ポリープ (疑い含む)	6	6	12	腎血管筋脂肪腫疑い	9	10	19
肝尾状葉腫大	1	0	1	多発性胆嚢ポリープ	6	1	7	腎腫大	1	1	2
肝右葉腫大	1	0	1	肝外胆管拡張 (8mm以上)	4	7	11	腎のう胞(隔壁あり)	1	0	1
肝血管異常疑い	1	0	1	胆嚢腫瘍疑い	4	1	5	腎多房性のう胞疑い (隔壁あり)	1	0	1
門脈-肝静脈シャント 疑い	1	0	1	胆嚢結石 (充満型含む)	2	1	3	水腎症	1	0	1
肝内胆管拡張	1	0	1	胆泥疑い(充満)	1	1	2	腎形態異常	1	0	1
肝嚢胞 (内部エコーあり)	0	3	3	胆嚢描出不能	1	1	2	副腎腫瘤疑い	1	0	1
肝嚢胞 (内部エコーあり)	0	1	1	胆嚢壁評価不能	1	0	1	多発性のう胞腎 (疑い含む)	0	2	2
不規則性脂肪肝	0	1	1	胆砂疑い	1	0	1	腎のう胞 (内部エコーあり)	0	2	2
				胆嚢萎縮	1	0	1	腎描出不良	0	1	1
				胆嚢腫大	0	1	1				
				肝外胆管描出不能	0	1	1				
計	98	77	175	計	96	50	146	計	42	40	82
膵臓	男	女	計	脾臓	男	女	計	その他	男	女	計
膵管拡張(3mm以上)	30	10	40	脾腫瘤疑い	4	1	5	腹部大動脈瘤 (疑い含む)	2	1	3
膵のう胞(疑い含む)	16	26	42	脾腫	3	1	4	腹部大動脈壁肥厚	2	0	2
膵腫瘤疑い	8	5	13	脾血管腫疑い	1	1	2	腹腔内腫瘤疑い	1	1	2
膵石灰化(疑い含む)	8	4	12	膵のう胞疑い	0	1	1	腹水	1	0	1
膵高エコー腫瘤疑い	6	10	16					腹部大動脈石灰化	1	0	1
膵石(疑い含む)	2	0	2					腹腔内のう胞疑い (由来臓器不明)	0	2	2
膵のう胞性腫瘤疑い	1	0	1								
膵体部高エコー像	0	1	1								
計	71	56	127	計	8	4	12	計	7	4	11

表15-2に腹部超音波検査要精査所見内訳(重複あり)を示した。

要精査となった所見が最も多かったのは肝臓で全体の35.50%(175人/493人)であった。次いで胆嚢が29.61%(146人/493人)、膵臓が25.76%(127人/493人)、腎臓が16.63%(82人/493人)、脾臓が2.43%(12人/493人)であった。

肝臓の所見で多かったのは、肝血管腫では19.88%(98人/493人)、肝腫瘤疑いは12.98%(64人/493人)であった。胆嚢の所見で多かったのは胆嚢腺筋腫症(疑い含む)で10.14%(50人/493人)、胆嚢壁肥厚は9.94%(49人/493人)であった。腎臓の所見で多かったのは腎盂拡張(疑い・軽度含む)が6.29%(31人/493人)、腎腫瘤(疑い含む)は4.06%(20人/493人)、腎血管筋脂肪腫疑いは3.85%(19人/493人)であった。膵臓では、膵のう胞8.52%(42人/493人)、膵管拡張8.11%(40人/493人)、脾臓では脾腫瘤疑い1.01%(5人/493人)、脾腫0.81%(4人/493人)であった。

2022年度、腹部超音波検査精密検査の結果「がん」と確診されたものはいなかった。

## 16. 胸部X線検査(表16、図16-1、図16-2)

胸部X線検査を受けた総受診者数は33,589人、要精検者数193人であった。

全体の要精検率は0.57%(193人/33,589人)であった。男性は0.77%(138人/17,973人)、女性0.35%(55人/15,616人)となり、男性は女性の約2倍となり、80~84歳が6.47%と高かった。

全体の精検受診率は63.73%(123人/193人)であった。男性は57.97%(80人/123人)、女性78.18%(43人/55人)であった。女性の精検受診率が男性より約20%高かった。

精密検査の結果、「がん」と確診されたのは33,589人中5人(50~54歳2人、60~64歳1人、70~74歳1人)すべて男性であった。全体のがん発見率は0.015%(5人/33,589人)であった。

表16 胸部X線検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
~19	男	132	0					
	女	76	0					
20~24	男	783	1	0.13	1	100.00		
	女	614	0					
25~29	男	1,093	0					
	女	838	0					
30~34	男	1,211	1	0.08	1	100.00		
	女	883	1	0.11	0	0.00		
35~39	男	1,600	4	0.25	1	25.00		
	女	1,321	5	0.38	3	60.00		
40~44	男	1,997	6	0.30	2	33.33		
	女	1,829	3	0.16	2	66.67		
45~49	男	2,318	7	0.30	5	71.43		
	女	2,088	2	0.10	1	50.00		
50~54	男	2,237	21	0.94	11	52.38	2	0.09
	女	2,017	6	0.30	3	50.00		
55~59	男	2,112	19	0.90	11	57.89		
	女	1,977	7	0.35	7	100.00		
60~64	男	1,966	25	1.27	14	56.00	1	0.05
	女	1,667	4	0.24	2	50.00		
65~69	男	1,271	20	1.57	10	50.00	1	0.08
	女	1,063	6	0.56	5	83.33		
70~74	男	766	15	1.96	11	73.33	1	0.13
	女	735	10	1.36	9	90.00		
75~79	男	282	8	2.84	6	75.00		
	女	329	6	1.82	6	100.00		
80~84	男	139	9	6.47	6	66.67		
	女	121	3	2.48	3	100.00		
85~89	男	56	2	3.57	1	50.00		
	女	48	2	4.17	2	100.00		
90~94	男	9	0					
	女	8	0					
95~	男	1	0					
	女	2	0					
男女別計	男	17,973	138	0.77	80	57.97	5	0.028
	女	15,616	55	0.35	43	78.18	0	0.000
合計		33,589	193	0.57	123	63.73	5	0.015

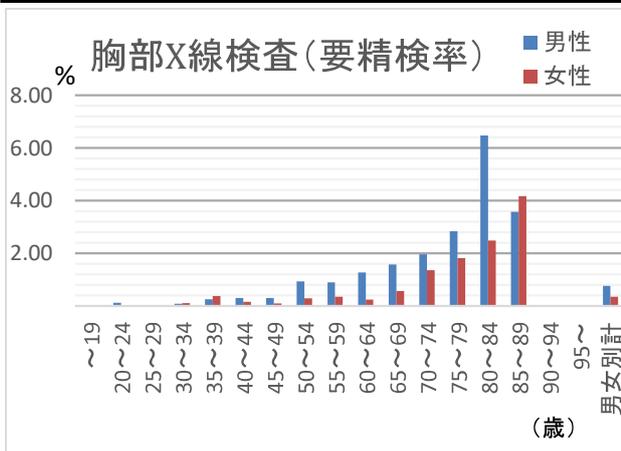


図16-1 胸部X線検査要精検率

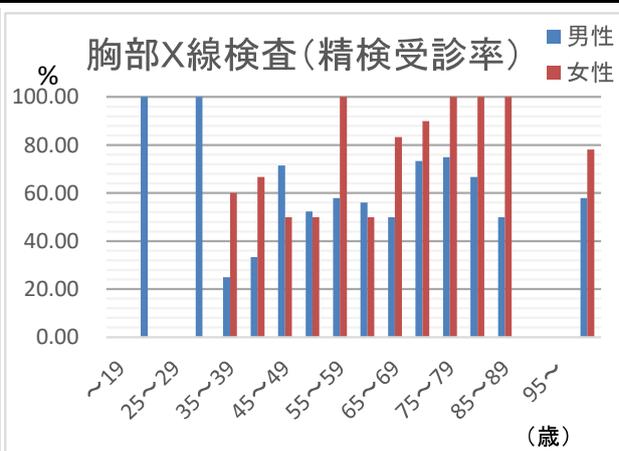


図16-2 胸部X線検査精検受診率

### 17. 喀痰細胞診検査(表17、図17)

喀痰細胞診検査は、厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づいて、弘前市の肺がん検診受診者のうち「50歳以上で喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が600以上の者」と、事業所からの依頼があった者を対象として実施している。

喀痰細胞診検査を受けた総人数は149人、そのうち男性は141人、女性は8人であった。

要精検者は75歳以上の男性1人のみであり、要精検率は75歳以上男性で3.33%、男性全体の要精検率は0.71%、男女全体では0.67%であった。

今回、要精検者が75歳以上の1人であったが、その方が精検受診をしていないため、精検受診率は0となった。

表17 喀痰細胞診検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	男	0	0					
	女	0	0					
20～24	男	0	0					
	女	0	0					
25～29	男	1	0					
	女	0	0					
30～34	男	1	0					
	女	0	0					
35～39	男	0	0					
	女	0	0					
40～44	男	1	0					
	女	0	0					
45～49	男	3	0					
	女	1	0					
50～54	男	4	0					
	女	2	0					
55～59	男	21	0					
	女	2	0					
60～64	男	19	0					
	女	3	0					
65～69	男	25	0					
	女	0	0					
70～74	男	36	0					
	女	0	0					
75～	男	30	1	3.33	0	0.00		
	女	0	0					
男女別計	男	141	1	0.71	0	0.00	0	0.000
	女	8	0					
合計		149	1	0.67	0	0.00	0	0.000

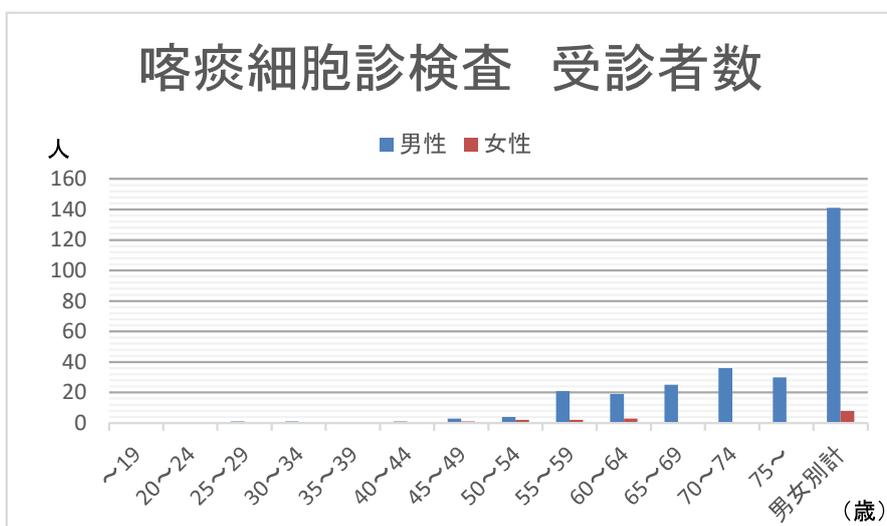


図17 喀痰細胞診検査受診者数

### 18. ABC検診(表18、図18-1、図18-2)

ABC検診を行けた総受診者数は511人、要精検者数89人であった。

全体の要精検率は17.42%(89人/511人)で、男性は19.16%(41人/214人)、女性16.16%(48人/297人)であった。男女とも70歳以上で高くなっている。

全体の精検受診率は41.57%(37人/89人)であった。男性は34.15%(14人/41人)、女性47.92%(23人/48人)であった。

表18 ABC検診

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率
～19	男	2	0			
	女	3	0			
20～24	男	9	2	22.22	2	100.00
	女	2	0			
25～29	男	7	0			
	女	13	3	23.08	1	33.33
30～34	男	4	2	50.00	0	0.00
	女	16	2	12.50	1	50.00
35～39	男	8	1	12.50	1	100.00
	女	9	2	22.22	1	50.00
40～44	男	34	2	5.88	1	50.00
	女	94	12	12.77	8	66.67
45～49	男	13	3	23.08	0	0.00
	女	26	4	15.38	2	50.00
50～54	男	27	5	18.52	1	20.00
	女	33	5	15.15	3	60.00
55～59	男	34	4	11.76	2	50.00
	女	31	3	9.68	3	100.00
60～64	男	26	6	23.08	1	16.67
	女	31	6	19.35	1	16.67
65～69	男	23	1	4.35	1	100.00
	女	20	4	20.00	2	50.00
70～74	男	16	10	62.50	3	30.00
	女	15	6	40.00	1	16.67
75～79	男	6	3	50.00	2	66.67
	女	3	1	33.33	0	0.00
80～84	男	2	1	50.00	0	0.00
	女	1	0			
85～89	男	2	0			
	女	0	0			
90～94	男	1	1	100.00	0	0.00
	女	0	0			
95～	男	0	0			
	女	0	0			
男女別計	男	214	41	19.16	14	34.15
	女	297	48	16.16	23	47.92
合計		511	89	17.42	37	41.57

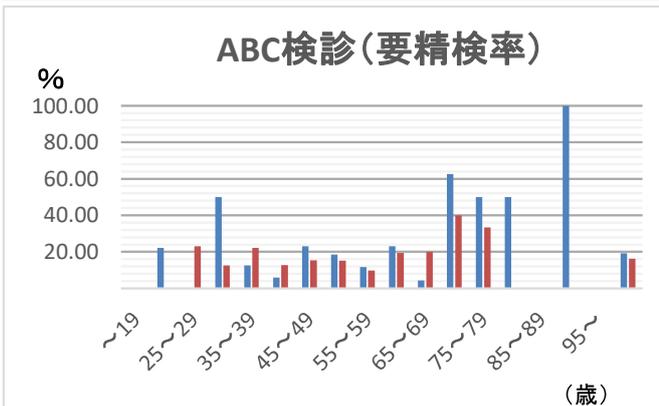


図18-1 ABC検診要精検率

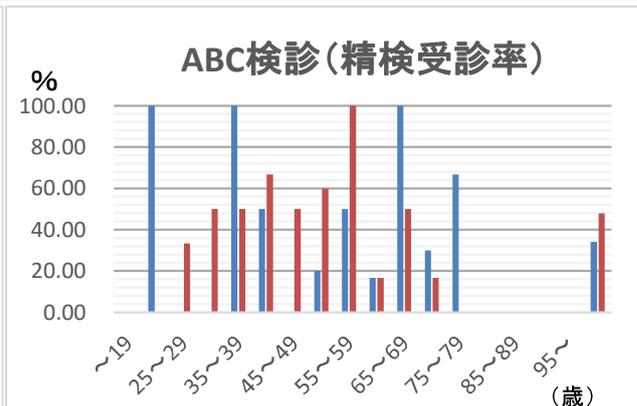


図18-2 ABC検診精検受診率

### 19. 胃X線検査(表19, 図19-1, 図19-2)

胃X線検査を受けた総受診者数は16,672人、要精検者数1,514人であった。

全体の要精検率は9.08%(1,514人/16,672人)であった。男性は9.48%(928人/9,789人)、女性8.51%(586人/6,883人)であった。

全体の精検受診率は54.82%(830人/1,514人)であった。男性は49.25%(457人/928人)、女性63.65%(373人/586人)であった。

精密検査の結果、「がん」と確診されたのは16,672人中11人(50~54歳1人、60~64歳1人、65~69歳2人、70~74歳5人、80~84歳1人)であり、11人中10人が男性で、女性は70~74歳1人であった。全体のがん発見率は0.0066%(11人/16,672人)であった。

表19 胃X線検査

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
~19	男	1	0					
	女	0	0					
20~24	男	44	1	2.27	0	0.00		
	女	3	0					
25~29	男	68	5	7.35	2	40.00		
	女	25	0					
30~34	男	98	8	8.16	4	50.00		
	女	50	2	4.00	2	100.00		
35~39	男	1,002	56	5.59	28	50.00		
	女	632	41	6.49	21	51.22		
40~44	男	1,396	86	6.16	37	43.02		
	女	1,023	73	7.14	44	60.27		
45~49	男	1,593	117	7.34	54	46.15		
	女	1,101	75	6.81	41	54.67		
50~54	男	1,535	136	8.86	50	36.76	1	0.07
	女	1,034	81	7.83	51	62.96		
55~59	男	1,397	148	10.59	66	44.59		
	女	1,037	81	7.81	49	60.49		
60~64	男	1,282	155	12.09	83	53.55	1	0.08
	女	828	83	10.02	52	62.65		
65~69	男	705	105	14.89	57	54.29	2	0.28
	女	513	58	11.31	41	70.69		
70~74	男	411	63	15.33	44	69.84	4	0.97
	女	340	44	12.94	35	79.55	1	0.29
75~79	男	143	23	16.08	17	73.91	0	0.00
	女	191	28	14.66	20	71.43		
80~84	男	79	15	18.99	9	60.00	2	2.53
	女	77	16	20.78	14	87.50		
85~89	男	30	9	30.00	6	66.67		
	女	25	4	16.00	3	75.00		
90~94	男	4	1	25.00	0	0.00		
	女	3	0					
95~	男	1	0					
	女	1	0					
男女別計	男	9,789	928	9.48	457	49.25	10	0.102
	女	6,883	586	8.51	373	63.65	1	0.015
合計		16,672	1,514	9.08	830	54.82	11	0.066

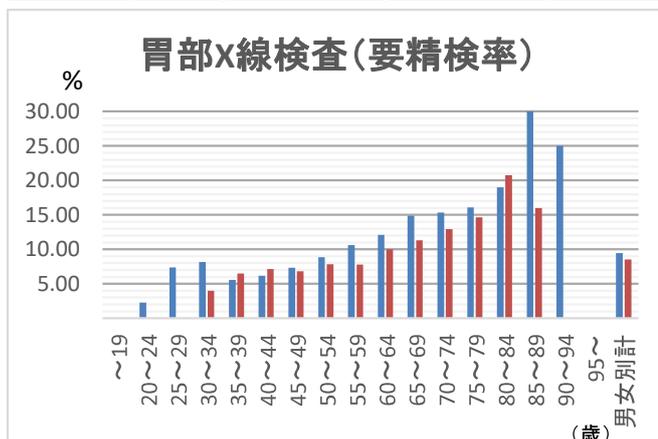


図19-1 胃X線検査要精検率

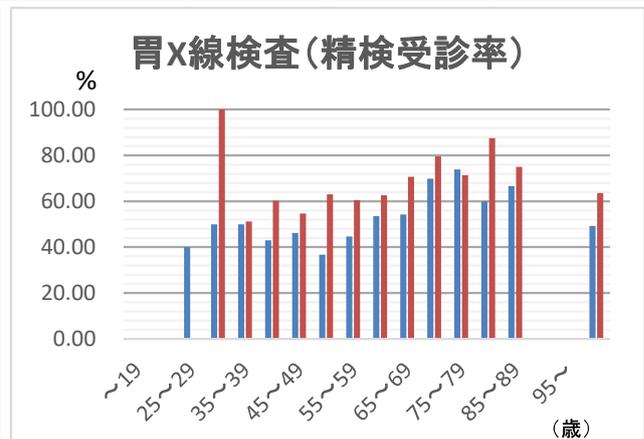


図19-2 胃X線検査精検受診率

## 20. 大腸がん検査(糞便ヒトヘモグロビン検査)

大腸がん検査を受けた総受診者数は24,285人、要精検者数1,097人であった。

全体の要精検率は4.52%(1,097人/24,285人)であった。男性は5.14%(664人/12,906人)、女性3.81%(433人/11,379人)となり、男性は50歳以上で高くなっている。

全体の精検受診率は54.24%(595人/1,097人)であった。男性は51.66%(343人/664人)、女性58.20%(252人/433人)であった。男性の年代別では精検受診率は大差ないが、女性の精検受診率は70歳～74歳・75歳以上の年代で80%以上になっている。

精密検査の結果、「がん」と確診されたのは24285人中29人あり、全体のがん発見率は0.119%(29人/24,285人)であった。「がん」が確診された29人のうち、男性15人、女性14人と性差はなく、男女ともに55歳以上から増えている。

表20 大腸がん検査(糞便ヒトヘモグロビン検査)

年齢	性別	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	男	10	1	10.00	0	0.00		
	女	3	0					
20～24	男	94	2	2.13	1	50.00		
	女	27	1	3.70	0	0.00		
25～29	男	117	7	5.98	2	28.57		
	女	71	4	5.63	4	100.00		
30～34	男	142	4	2.82	2	50.00		
	女	114	3	2.63	2	66.67		
35～39	男	1,174	37	3.15	22	59.46		
	女	937	39	4.16	19	48.72	1	0.11
40～44	男	1,751	68	3.88	34	50.00		
	女	1,659	70	4.22	35	50.00		
45～49	男	1,920	78	4.06	35	44.87	1	0.05
	女	1,705	63	3.70	32	50.79		
50～54	男	1,915	102	5.33	49	48.04	1	0.05
	女	1,673	48	2.87	28	58.33		
55～59	男	1,817	100	5.50	46	46.00	3	0.17
	女	1,694	61	3.60	26	42.62		
60～64	男	1,722	92	5.34	44	47.83	5	0.29
	女	1,411	56	3.97	39	69.64	3	0.21
65～69	男	1,110	74	6.67	48	64.86	2	0.18
	女	916	29	3.17	18	62.07	2	0.22
70～74	男	685	54	7.88	34	62.96	2	0.29
	女	668	27	4.04	22	81.48	3	0.45
75～	男	449	45	10.02	26	57.78	1	0.22
	女	501	32	6.39	27	84.38	5	1.00
男女別計	男	12,906	664	5.14	343	51.66	15	0.116
	女	11,379	433	3.81	252	58.20	14	0.123
合計		24,285	1,097	4.52	595	54.24	29	0.119

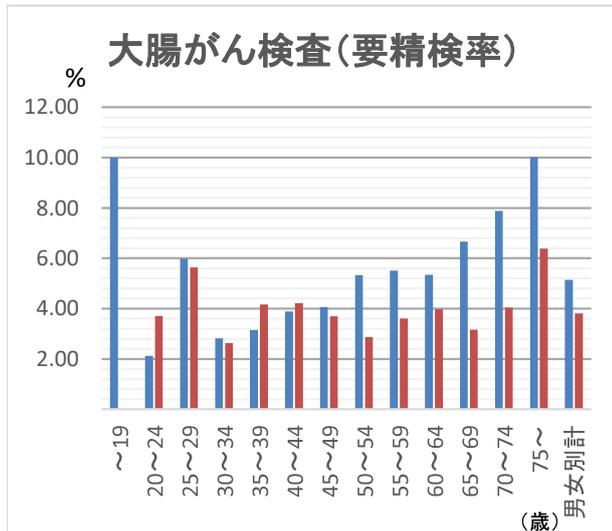


図20-1 大腸がん検査要精検率

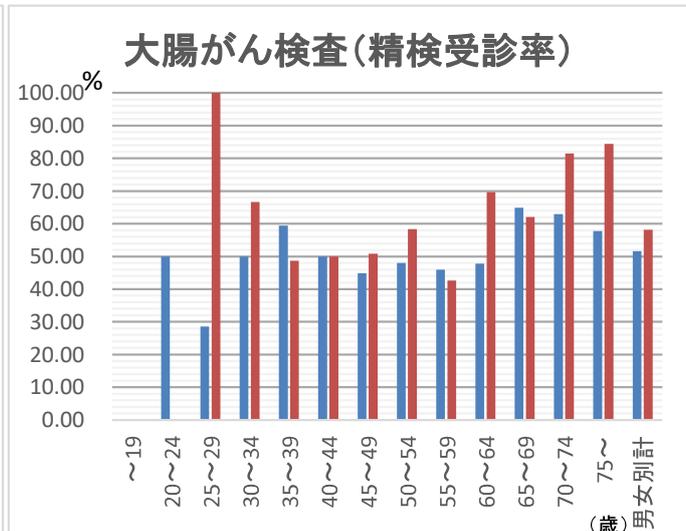


図20-2 大腸がん検査精検受診率

### 21-1) 乳がん検査(マンモグラフィ検査)

乳がん検診のマンモグラフィ検査対象は40歳以上の女性である。マンモグラフィの読影は二人の医師による二重読影で行われ、いずれか一方の医師が要精検と判定した場合に、要精検とされる。

表21-1)に示す通りマンモグラフィ検査を受けた総受診者数は3,549人、要精検者数204人であった。

図21-1)①にマンモグラフィ検査要精検率を示した。要精検率は5.75%(204人/3,549人)であった。

図21-1)②に精検受診者数と精検受診率を示した。全体の精検受診率は85.29%(174人/204人)であった。50～59歳は74～78%、80～84歳では50%と精検受診率が低く、それ以外の年齢では高かった。

精密検査の結果、「がん」と確診されたのは3,549人中10人、全体のがん発見率は0.282%(10人/3,549人)であった。

表21-1) マンモグラフィ検査

年齢	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	0	0					
20～24	0	0					
25～29	0	0					
30～34	0	0					
35～39	0	0					
40～44	770	42	5.45	38	90.48	1	0.13
45～49	642	41	6.39	36	87.80	2	0.31
50～54	700	42	6.00	33	78.57	1	0.14
55～59	494	27	5.47	20	74.07	1	0.20
60～64	511	25	4.89	24	96.00	3	0.59
65～69	204	11	5.39	9	81.82		
70～74	172	10	5.81	9	90.00	2	1.16
75～79	39	3	7.69	3	100.00		
80～84	14	2	14.29	1	50.00		
85～89	3	1	33.33	1	100.00		
90～94	0	0					
95～	0	0					
合計	3,549	204	5.75	174	85.29	10	0.282

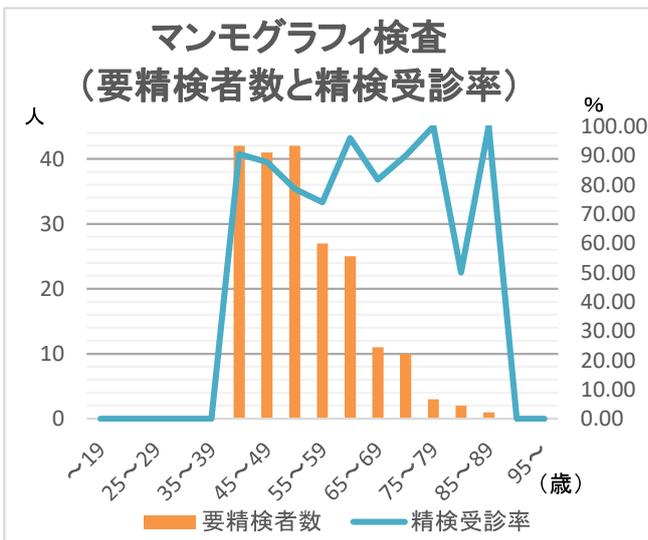
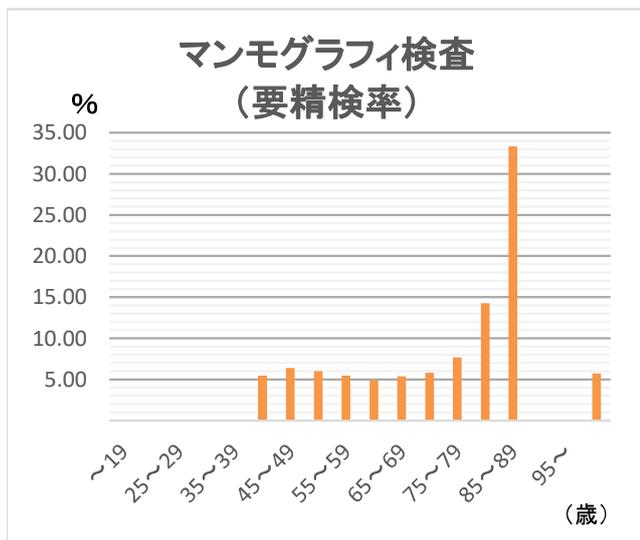


図21-1)① マンモグラフィ検査要精検率

図21-1)② マンモグラフィ検査要精検者数と精検受診率

## 21-2) 乳がん検査(乳房超音波検査)

乳がん検診において乳房超音波検査の対象は、事業所健診40歳未満の女性としている。乳房超音波検査の読影は二人の医師による二重読影で行われ、いずれか一方の医師が要精検と判定した場合に、要精検とされる。

乳房超音波検査を受けた総受診者数は420人、要精検者数は18人であった。

乳房超音波検査の要精検率は4.29%(18人/420人)であった。

全体の精検受診率は88.89%(16人/18人)であった。精密検査の結果「がん」と確認されたものはいなかった。

表21-2) 乳房超音波検査

年齢	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	0	0					
20～24	13	1	7.69	1	100.00		
25～29	49	2	4.08	2	100.00		
30～34	129	7	5.43	5	71.43		
35～39	229	8	3.49	8	100.00		
全体	420	18	4.29	16	88.89	0	0.000

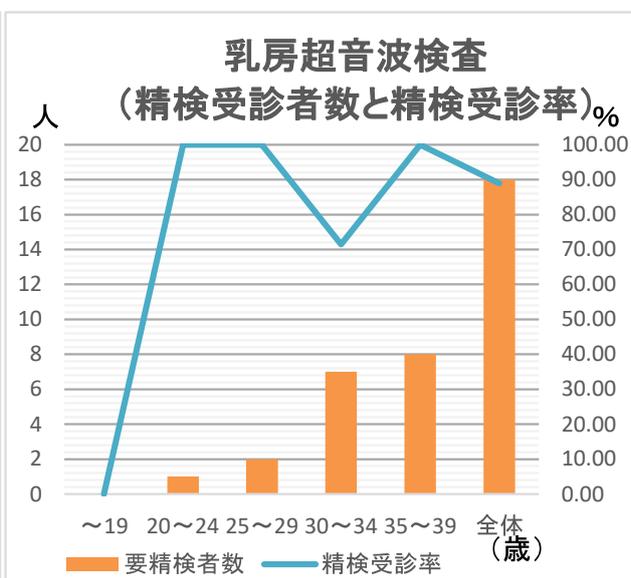
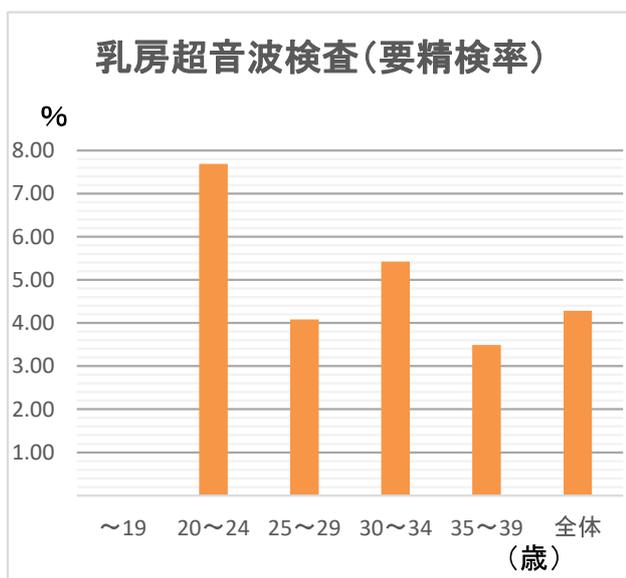


図21-2)①乳房超音波検査要精検率

図21-2)②乳房超音波検査精検受診者数と精検受診率

## 22. 子宮頸がん検査(表22、図22-1、図22-2)

子宮がん検査内容は、細胞診検査、内診、問診、経膈超音波検査を行っている。

子宮がん検査を受けた受診者数は2,713人であり、そのうち要精検者数は83人、要精検率は3.06であった。

精検受診者数は全体で63人であった。年代別にみると35～44歳(15人+13人)28人で、全体の44%(18人/63人)を占めた。

全体の精検受診率は75.90%であった。年代別にみると40～64歳は50～66%に止まっているが、30～39歳では90%を超え、20～29歳・65～69歳では100%であった。精密検査の結果、「がん」と確診されたのは1人で、がん発見率は全体として0.037%(1人/2,713人)であった。

表22 子宮がん検査

年齢	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	0	0					
20～24	55	3	5.45	3	100.00		
25～29	96	4	4.17	4	100.00		
30～34	184	10	5.43	9	90.00		
35～39	288	16	5.56	15	93.75		
40～44	470	20	4.26	13	65.00		
45～49	429	6	1.40	4	66.67		
50～54	455	14	3.08	9	64.29		
55～59	355	3	0.85	2	66.67		
60～64	277	6	2.17	3	50.00	1	0.36
65～69	78	1	1.28	1	100.00		
70～74	25	0					
75～	1	0					
合計	2,713	83	3.06	63	75.90	1	0.037

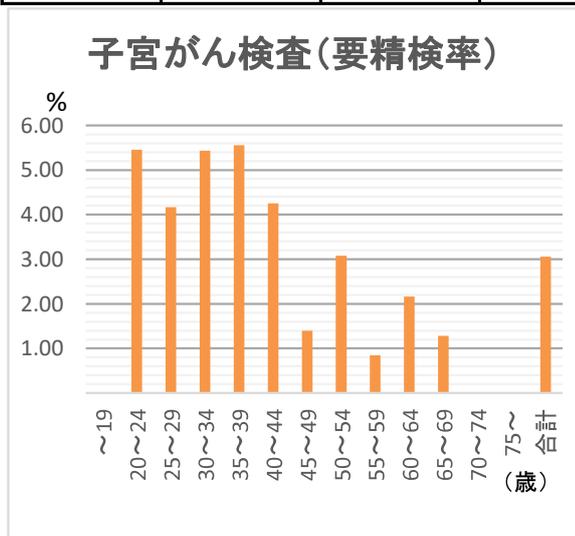


図22-1 子宮がん検査(要精検率)

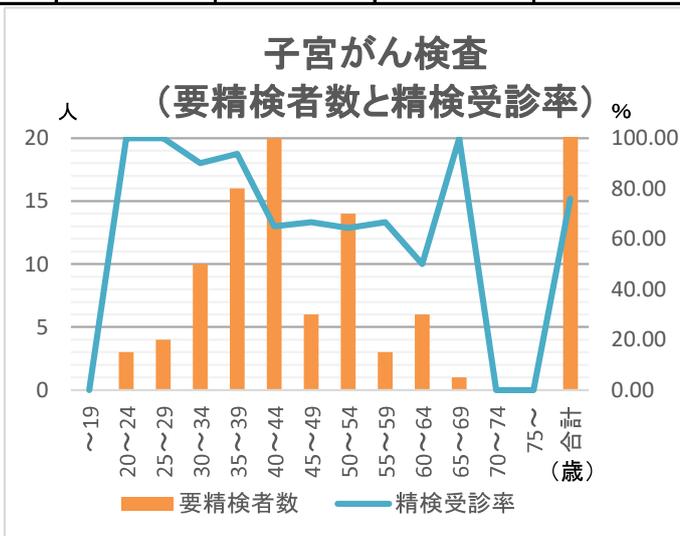


図22-2 子宮がん検査(要精検者数と精検受診率)

### 23. 前立腺がん検査(表23、図23-1、図23-2)

前立腺がん検査は弘前市では50歳以上の希望者、事業所等での検診では希望者が対象となっている。

前立腺がん検査は、前立腺得意抗原検査で行われ、4.1ng/dL以上で「要精検」と判定される。また、築年で受診したものの場合は、年間0.75ng/dL以上の上昇がみられる場合は正常値でも経過観察となる。

前立腺がん検査を受けた受診者数は1,432人であった。図23-1に年代別要精検率を示した。全体の要精検率は4.12%(59人/1,432人)であった。50歳未満に要精検者は見られなかった。50歳～64歳までは要精検率は4%未満であったが、65歳以上の年代では要精検率が8%以上になっている。

図23-2に年代別精検受診率を示した。全体の精検受診率は66.10%(39人/59人)であった。精検受診率は55～59歳42.86%、75歳以上で33.33%に留まっているが、70～74歳では92.86%と高かった。

精密検査の結果、「がん」が確認されたのは全体で4人(50～54歳1人、60～64歳1人、70～74歳2人)おり、がん発見率は全体で0.279%(4人/1,432人)であった。

表23 前立腺がん検査

年齢	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
～19	0	0					
20～24	2	0					
25～29	6	0					
30～34	15	0					
35～39	31	0					
40～44	59	0					
45～49	107	0					
50～54	213	3	1.41	2	66.67	1	0.47
55～59	256	7	2.73	3	42.86		
60～64	356	14	3.93	10	71.43	1	0.28
65～69	170	15	8.82	9	60.00		
70～74	157	14	8.92	13	92.86	2	1.27
75～	60	6	10.00	2	33.33		
合計	1,432	59	4.12	39	66.10	4	0.279

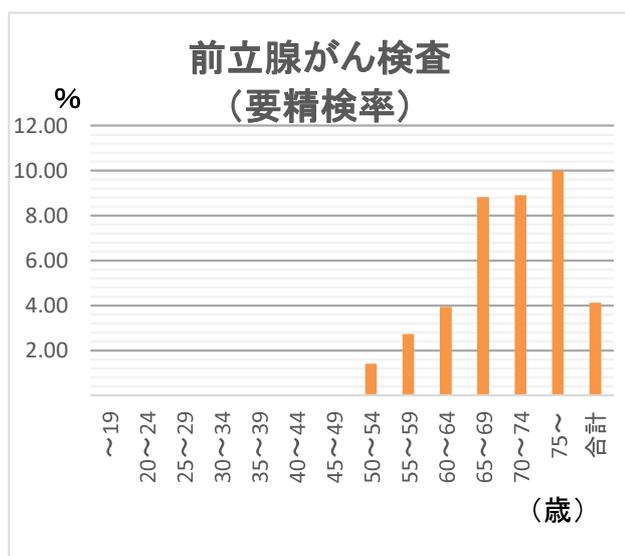


図23-1 前立腺がん検査(要精検率)

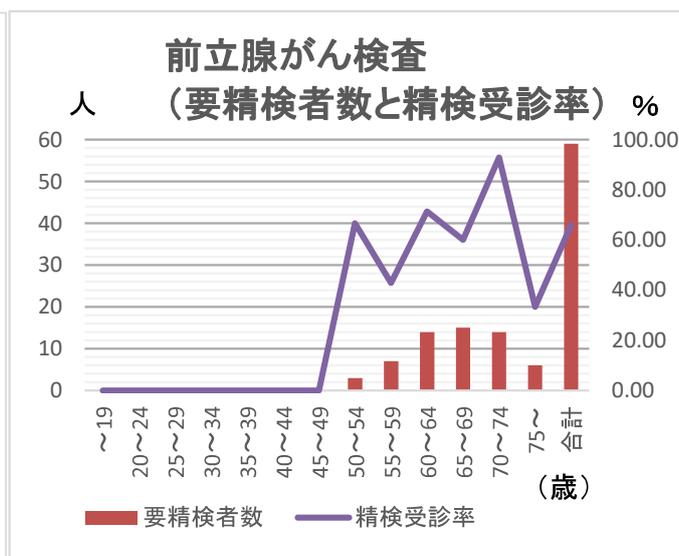


図23-2 前立腺がん検査(要精検者数と精検受診率)

## 24. 特定保健指導

当センターでは、契約を結んでいる4か所の共済組合、2か所の健保組合、協会けんぽ、国保ドックの方に特定保健指導を行っている。

2022年度の特定保健指導は、健診当日または後日に血液検査の結果をふまえて保健指導対象となった方に対し、初回面談を一括実施で対応した。健診当日の初回面談は、健診が終了するまでに検査課に血液検査の結果を出してもらい、さらに初回面談実施の同意が得られた者に対して行った。対象者を保険者別にみると健保組合、共済組合、協会けんぽ、国保であった。

表24に2022年度の特定保健指導実施者の内訳を示す。

積極的支援のうち初回面談実施数は44人であったが、中断は4人あり、終了者は40人となった。

動機付け支援のうち初回面談実施数は44人で、中断者はなく、終了者は44人であった。

特定保健指導はセンター内での指導の他、出張特定保健指導も実施した。事業所に出向くことで、対象者は移動時間の短縮ができ利便性が向上した。

特定健診だけでなく当日に特定保健指導を行うことで、生活習慣病の予防や健康意識の向上が期待される。

表24 2022年度特定保健指導実施数(人)

積極的支援	初回面談実施数	44
	終了者	40
	中断者	4
動機付け支援	初回面談実施数	44
	終了者	44
	中断者	0

## IV. 2022年度 学校(児童・生徒)心臓病検診

当センターでは、弘前市との契約を基に市内の小・中学校に検査技師3人が赴き、1年生を対象に心電図検査を行っている(必要に応じて2年生以上も行う)。

1次判定として、心臓病調査票、学校医による定期健康診断及び心電図検査の結果より専門医6人に判定してもらい、1次判定会議を開き2次検診の対象者の抽出を行う。但し、既に弘前大学医学部附属病院及び他医療機関にて経過観察中の場合は対象より除外する。

2次検診は保護者に同伴してもらい、当センターにて2日間に渡って、聴診及び問診、心電図(再検査または負荷)、心臓超音波検査が行われ、後日専門医による2次判定会議を開き、要精密検査対象者を抽出し、弘前市教育委員会に報告している。

**表25 2022年度の1次検診実施内容**

	学校数	実施人数	未受診者
小学校	32	1,058	2
中学校	16	1,103	4
計	48	2161	6

### 1) 1次検診実施内容

表25に示した通り、2022年度の1次検診実施人数は小学校(32校)1,058人、中学校(16校)1,103人で合計2,161人であった(前年度より112人減)。また未受診者は小学生2人(コロナ感染、不登校)、中学生4人(不登校、自閉症)の計6人であった。

**表26 1次検診判定結果(2次検診対象者)**

	1年生対象者	2019年度からの経過観察者	計
小学校	22	2	24
中学校	32	0	32
計	54	2	56

### 2) 1次検診判定結果

表26に示した通り、1次検診判定結果は1次判定より抽出された小学生22人、中学生32人の計54人が2次検診対象者となった。また2019年度の心臓病検診で経過観察が必要と判定され、4年時に再度2次検診対象となった小学生2人も合わせ、合計56人であった。

なお医療機関での経過観察者は小学生25人、中学生11人の計36人であった。

**表27 2次検診検査実施内訳(重複あり)**

	小学生	中学生	計
負荷心電図	17	29	46
心臓超音波	8	10	18
心電図再検	0	3	3
聴診	7	1	8
問診・診察	4	2	6
計	36	45	81

### 3) 2次検診検査実施内訳

表27に示した通り、1次検診より抽出された2次検診対象者の検査実施内訳は負荷心電図が小学生17人、中学生29人と共に最も多く、計46人であった。負荷心電図はマスター2段階負荷試験(ダブル)を行い記録した。

※2019年度からの経過観察者の2次検診検査内容は負荷心電図、心臓超音波を行った。

**表28 2次検診判定結果**

	精密検査	経過観察	管理不要	異常なし	計
小学生	2	1	0	20	23
中学生	6	1	1	23	31
計	8	2	1	43	54

### 4) 2次検診判定結果

2次検診受診者数は小学生23人、中学生31人の計54人で、未受診者は小学生1人(病院受診済)、中学生1人(保護者の都合により、後日病院受診予定)であった。

表28に示した通り、精密検査対象者は小学生2人、中学生6人の計8人であった。また、経過観察者は小学生1人、中学生1人の計2人、所見はあるが管理不要は小学生0人、中学生1人の計1人、異常なしは小学生20人、中学生23人の計43人であった。

表29に2次検診判定結果内訳を示す。精密検査対象者8人のうち、心房中隔欠損症の中学生1人は心臓超音波検査で指摘された。また、間欠性WPW症候群の中学生1人は心臓超音波検査で器質的心疾患なしと確認され管理不要となった。

**表29 2次検診判定結果内訳**

	所見名	小学生	中学生	計
精密検査	WPW症候群	1	2	3
	心室期外収縮(頻発)	0	2	2
	上室期外収縮	1	0	1
	洞房ブロック・移動性調律	0	1	1
	心房中隔欠損症	0	1	1
経過観察	心室期外収縮(散発)	0	1	1
	間欠性WPW症候群	1	0	1
管理不要	間欠性WPW症候群	0	1	1
異常なし		20	23	43
	計	23	31	54

## V. 2022年度学校(児童・生徒)腎臓病・糖尿病検診

当センターでは、心臓病検診と同様に弘前市との契約を基に、市内小・中学校の児童・生徒の検尿結果及び調査票、並びに医療機関における検査結果から、腎臓病及び糖尿病についての異常者の抽出・判定を行っている。

検尿の1次検査および2次検査の項目はどちらも薬剤師会が、早朝尿を用いた尿試験紙法にて尿蛋白・尿潜血・尿糖の3項目を行っている。1次検査で3項目中1項目以上が陽性(＋～2＋)となった場合に2次検査の対象となり、更に2次検査で1項目以上が陽性となった場合に3次検査の対象となる。3次検査(尿検査・血液検査・血圧)は各医療機関で行ってもらふ。それらの検査結果と保護者に記入提出して頂いた調査票を基に、小児科医6名で判定を行っている。3次検査の尿検査・血液検査の項目は以下に示す。

尿検査……尿定性(比重・蛋白・潜血・糖)、尿沈渣、蛋白定量、β2マイクログロブリン、クレアチニン

血液検査……総蛋白、尿素窒素、クレアチニン、ASO、血清IgA、血清補体C3

1次・2次検査で3項目中1項目でも(3+)以上、あるいは肉眼的血尿があった場合は、検尿を実施している薬剤師会より学務健康課を通して学校へ至急連絡する体制をとっている。学校は、保護者へ至急連絡し、速やかに小児腎臓病専門医療機関への受診を勧める事となっている(但し、すでに医療機関で管理中である場合や生理中であった場合を除く)

表30. 2022年度検尿結果

	検尿対象者数	1次検査陽性者数	2次検査陽性者数	3次検査実施数
小学校 32校	6,591人	219人(3.32%)	38人(0.58%)	37人(0.56%)
中学校 16校	3,330人	278人(8.35%)	55人(1.65%)	44人(1.32%)
合計	9,921人	497人(5.01%)	93人(0.94%)	81人(0.82%)

### ■2022年度検尿結果

表30に示す通り、2022年度学校(児童・生徒)腎臓病・糖尿病検診の受診者数は9,921人で、1次検査陽性者数は小・中学生を合わせて497人(5.01%)あり、更に2次検査陽性者数は小・中学生を合わせて93人(0.94%)であった。3次検査が実施され、かつ検査結果が回収された81人(0.82%)が腎臓病及び糖尿病判定の対象となった。2次検査陽性者数と3次検査実施数が合わない理由は、2次検査陽性でも医療機関を受診しなかったり、受診が遅れたため3次検査判定に間に合わなかった事例や、前年度の検尿でも陽性となっていた児童・生徒が、1次検査で陽性であったため、2次検査を受けずに3次検査の結果の提出があった事例が含まれていたためである。

医療機関で経過観察中であっても、2次検査で陽性となった場合は、医療機関受診時の検査結果を提出して頂き3次検査判定対象としている。経過観察中であっても、児童・生徒の現状を3次検査で把握することで、専門医によるフォローにもなっている。

表31に腎臓病についての3次判定結果、表32は糖尿病についての3次判定結果を示し、判定結果の下欄(細字)は所見名を示す。所見名については、腎臓病専門の小児科医によって、3次検査結果を基に判定された暫定所見である。精密検査が必要であれば、小児腎臓病専門医のいる病院を受診して、最終的な診断結果を出して頂くこととなっている。経過観察が必要な場合は、3次検査で受診した医療機関で、尿検査や血液検査を定期的に行って経過を見て頂き、必要であれば小児腎臓病専門医療機関へ紹介することとなっている。

表31 腎臓病 3次判定結果

判定結果	小学校	中学校
<b>要精密検査</b>	<b>3</b>	<b>8</b>
無症候性蛋白尿	1	2
腎炎疑い・軽度腎機能低下	1	
腎機能低下疑い	1	
尿細管性蛋白尿疑い		3
尿細管性蛋白尿疑い・無症候性血尿		2
腎炎疑い		1
<b>経過観察(通院中・治療中を含む)</b>	<b>15</b>	<b>15</b>
無症候性血尿	11	9
無症候性血尿・高血圧	1	
無症候性蛋白尿	2	5
腎炎疑い	1	
菲薄基底膜病		1
<b>治療の必要なし</b>	<b>17</b>	<b>20</b>
<b>合計</b>	<b>35</b>	<b>43</b>

表32 糖尿病 3次判定結果

判定結果	小学校	中学校
<b>要精密検査</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>要治療(治療中を含む)</b>	<b>0</b>	<b>1</b>
1型糖尿病		1
<b>経過観察(通院中を含む)</b>	<b>2</b>	<b>0</b>
腎性糖尿	1	
IgA血管炎(腎炎)回復期	1	
<b>治療の必要なし</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
<b>合計</b>	<b>2</b>	<b>1</b>

### ■3次判定結果(腎臓病・糖尿病)

表31に示す通り、腎臓病については、要精密検査と判定された者は小学生3人、中学生8人であった。経過観察と判定された者は、小学生、中学生ともに15人であった。

また、糖尿病については、表32に示す通り、小学生では要精密検査や要治療と判定された者はいなかったが、中学生では要治療(1型糖尿病)が1人であった。経過観察(通院中を含む)と判定された者は小学生が2人であった。

精密検査対象者については、弘前市教育委員会から各学校を通して弘前大学医学部附属病院小児科腎臓外来、あるいは国立病院機構弘前総合医療センター小児科(本判定に関与した医師が在籍)への受診を勧め、治療の必要な児童・生徒については、引き続き各医療機関での診療をお願いしている。また、経過観察を必要とする児童・生徒については、3次検査を行った医療機関での定期的な尿検査や血液検査等の継続をお願いしている。

慢性腎臓病や糖尿病もこの検診で早期発見・早期治療することによって、将来的な悪化防止に繋がることがわかってきているため、この事業は弘前市内の児童・生徒の健康維持に大きく関与していると言える。

## 巻末付録

付録1. 指導区分判定基準表

付録2. 総合問診票

付録3. 心電図所見の判定及び事後指導区分

付録4. 腹部超音波検査所見の判定及び事後指導区分

付録 1 . 指導区分判定基準表

検査項目		指導区分		経過観察	要精検	備考	
		異常なし	軽度異常				
体重	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	18.5 ~ 24.9	18.4 以下	25.0 以上			
血圧	最大血圧 (mmHg)	91 ~ 139	90 以下 140 ~ 149	150 ~ 159	160 以上		
	最小血圧 (mmHg)	89 以下	90 ~ 94	95 ~ 99	100 以上		
脂質	総コレステロール (mg/dl)	130 ~ 220		111 ~ 129 221 ~ 269	110 以下 270 以上		
	HDL コレステロール (mg/dl)	男	30 ~ 80	81 ~ 120	26 ~ 29	25 以下 121 以上	
		女	37 ~ 93	94 ~ 120	31 ~ 36	30 以下 121 以上	
	LDL コレステロール (mg/dl)	139 以下		140 ~ 159	160 以上		
中性脂肪 (mg/dl)	50 ~ 149	49 以下	150 ~ 249	250 以上 500 以上	肥満かつ飲酒無しの場合 肥満または飲酒有りの場合		
肝機能	AST (IU/l)	38 以下		39 ~ 49	50 以上		
	ALT (IU/l)	44 以下		45 ~ 49	50 以上		
	γ-GT (IU/l)	73 以下		74 ~ 100	101 以上 119 以上	肥満かつ飲酒無しの場合 肥満または飲酒有りの場合	
	ALP (IU/l)	104 ~ 338	103 以下	339 ~ 449	450 以上		
	総蛋白 (g/dl)	6.7 ~ 8.3	8.4 ~ 9.0	6.0 ~ 6.6	5.9 以下 9.1 以上		
	アルブミン (g/dl)	3.5 ~ 5.1	5.2 以上	3.0 ~ 3.4	2.9 以下		
	A/G 比	1.1 ~ 2.0		0.8 ~ 1.0 2.1 ~ 2.4	0.7 以下 2.5 以上		
	総ビリルビン (mg/dl)	0.2 ~ 1.2	0.1 以下	1.3 ~ 1.7	1.8 以上	肝機能全体で総ビリルビンのみ高値の場合は 1.3 以上で要精検とする	
	LD (IU/l)	106 ~ 211	105 以下 212 ~ 230	231 ~ 349	350 以上		
	アミラーゼ (IU/l)	43 ~ 116		117 ~ 159	42 以下 160 以上		
	ウロビリノーゲン	(±)		(+)	(2+) 以上		
	ZTT (U/l)	4 ~ 12	3.9 以下	12.1 ~ 15.0	15.1 以上	} どちらか一方の時は 要経過観察とする	
	TTT (U/l)	4.0 以下		4.1 ~ 8.0	8.1 以上		
	コリンエステラーゼ (U/l)	185 ~ 431		110 ~ 184 432 ~ 470	109 以下 471 以上		
肝炎	HBs 抗原	(-)			(+) 以上		
	HCV 抗体	(-)			(+) 以上		
代謝	血糖 (空腹時) (mg/dl) (NGSP 値)	70 ~ 99		50 ~ 69 100 ~ 125	49 以下 126 以上		
	尿糖	(-)	(±)	(+)	(2+) 以上		
	ヘモグロビン A1c (%)	5.8 以下		5.9 ~ 6.1	6.2 以上		
	尿酸 (mg/dl)	2.0 ~ 7.0	1.9 以下	7.1 ~ 7.9	8.0 以上		
血液一般	白血球数 (× 10 <sup>3</sup> )/μl	4.0 ~ 8.5	8.6 ~ 10.9	3.0 ~ 3.9	2.9 以下 11.0 以上		
	赤血球数 (× 10 <sup>6</sup> )/μl	男	4.10 ~ 5.30		3.60 ~ 4.09 5.31 ~ 5.79	3.59 以下 5.80 以上	
		女	3.50 ~ 4.80		3.30 ~ 3.49 4.81 ~ 5.19	3.29 以下 5.20 以上	
	ヘモグロビン (g/dl)	男	14.0 ~ 18.0		12.0 ~ 13.9 18.1 ~ 18.9	11.9 以下 19.0 以上	
		女	12.0 ~ 16.0		10.1 ~ 11.9 16.1 ~ 17.5	10.0 以下 17.6 以上	
	ヘマトクリット (%)	男	39.0 ~ 52.0		35.0 ~ 38.9 52.1 ~ 55.0	34.9 以下 55.1 以上	
		女	35.0 ~ 48.0		31.0 ~ 34.9 48.1 ~ 50.0	30.9 以下 50.1 以上	
血小板数 (× 10 <sup>4</sup> )/μl	12.0 ~ 35.0		10.0 ~ 11.9 35.1 ~ 44.9	9.9 以下 45.0 以上			
尿	蛋白	(-)	(±)	(+)	(2+) 以上		
	潜血	(-)	(±)	(+)	(2+) 以上		
	血清クレアチニン (mg/dl)	男	1.05 以下	1.06 ~ 1.19	1.20 ~ 1.39	1.40 以上	
		女	0.78 以下	0.79 ~ 0.89	0.90 ~ 1.09	1.10 以上	
	尿素窒素 (mg/dl)	5.0 ~ 23.0		24.0 ~ 29.0 0 ~ 4.0	30.0 以上		
前立腺	PSA (ng/dl) (前立腺特異抗原)	4.0 以下			4.1 以上	年間 0.75 以上の上昇が見られる場合は正常値でも経過観察とする	
大腸	糞便ヒトヘモグロビン	(-)			(+)		



### 付録3 心電図検査所見の判定および事後指導区分

分類	所見	区分
A	正常	1
B	a 正常範囲	1
	a 右軸偏位	2
	b 左軸偏位	2
C	c 不定軸	2
	a 肺性P	3
	b 僧房性P	3
	c 高電位 (注1)	2
	d 左室肥大 (注2)	5
D	e 右室肥大	5
	a I度房室ブロック(0.22sec以下) (注3)	3
	b II度房室ブロック(Wenckebach)	5
	c III度房室ブロック(Mobitz II)	5
	d III度房室ブロック	4
E	e WPW症候群(注4)	5
	f 短いP-R間隔	3
	a rsr'パターン	2
	b 不完全右脚ブロック	2
	c 間歇性右脚ブロック	3
	d 完全右脚ブロック	3
	e 間歇性左脚ブロック	5
	f 左脚前枝ブロック	3
	g 左脚後枝ブロック	3
	h 完全左脚ブロック	5
i 心室内ブロック	5	
F	a 軽度ST低下(0.025-0.05mV) (注6)	5
	b ST低下(0.05mV以上) (注6)	5
	c T波平低	5
	d 陰性T波(V1、V2、IIIを除く)	5
	e 2相性T	2
	f ST上昇 (注7)	2
	g T波増高	2
G	a Q、QS型	5
	b R波減高	5

#### 区分

- 1 異常なし
- 2 軽度異常
- 3 経過観察
- 4 要治療
- 5 要精査

分類	所見	区分
H	不整脈	
	a 洞性頻脈(HR100-120)	2
	b 著しい洞性頻脈(HR120以上)	5
	c 洞性徐脈(HR40-50)	2
	d 著しい洞性徐脈(HR40未満)	5
	e 洞性不整脈	2
	f 心房細動	4
	g 心房粗動	4
	h 移動性心房調律	2
	i 冠状静脈洞調律	2
	j 左房調律	2
	k 房室接合部調律	5
	l 散発性上室性期外収縮(2回未満)	3
	m 散発性上室性期外収縮(2回以上)	5
	n 上室性頻拍	4
	o 散発性心室性期外収縮(2回未満)	3
	p 散発性心室性期外収縮(2回以上)	5
	q 多源性心室性期外収縮	5
	r 間歇性心室性頻拍	4
	s 心室調律(房室解離を含む)	5
t 人工ペースメーカー調律	6	
I	その他	
	a 反時計方向回転	2
	b 時計方向回転	2
	c 低電位	3
	d 高度のQT延長	5
	e 右胸心	2

注1 ST-T異常を伴うものは左室肥大として扱う。

注2 ST-T異常を伴わない軽度の場合は高電位として扱う。

注3 高度のI度房室ブロックにおいてはII度房室ブロックに準じて扱う。

注4 初回精査が済み、無症状のものについては区分3として扱う。

注5 高度の軸偏位を伴うものは区分5として扱う。

注6 ST部分の形状、性別を含めた総合判定については担当医師の判断による。

注7 症状があり、急性心筋梗塞等の急性疾患が疑われる場合は区分4または5とする。

注8 低電位以外の所見があり、他疾患が疑われるものは区分3として扱う。

(日本人間ドック学会心電図検査所見の判定および事後指導区分を一部改変)

### 付録4 腹部超音波検査所見の判定および事後指導区分

分類	所見	区分	
A	異常なし	1	
	描出不能	5	
	B	径 5.0mm未満	3
		径 5-9.9mm	3
C	径 10mm以上	5	
	腫瘍	5	
D	腺筋腫症	3	
	壁肥厚 (>3mm)	5	
	腺筋腫症の所見なし	5	
	限局性	5	
	コメット様エコー	2	
	サイズ	3	
	腫大	3	
	縮小	3	
	充満型	5	
	非充満型	3	
	スラッジ(debris)	3	
E	胆摘後	2	
	肝外胆管拡張	5	
	結石	4	
	腫瘍	5	
	脂肪肝	3	
	慢性肝炎所見	3	
	肝硬変所見	4	
	嚢胞	2	
	壁・内部エコー異常なし	2	
	壁・内部エコー異常あり	5	
	血管腫およびその疑い	3	
	径 20mm未満	3	
	径 20mm以上	5	
F	腫瘍(血管腫を除く)	5	
	胆道気腫症	5	
	肝内胆管拡張	5	
	肝内結石	5	
	肝内石灰化	2	
	血管異常	5	
	G	異常なし	1
		描出不能	5
		ポリープ	3
		腫瘍	5
		壁肥厚 (>3mm)	5
コメット様エコー		2	
サイズ		3	
腫大		3	
縮小		3	
充満型		5	
非充満型		3	
スラッジ(debris)	3		
H	胆摘後	2	
	肝外胆管拡張	5	
	結石	4	
	腫瘍	5	
	脂肪肝	3	
	慢性肝炎所見	3	
	肝硬変所見	4	
	嚢胞	2	
	壁・内部エコー異常なし	2	
	壁・内部エコー異常あり	5	
	血管腫およびその疑い	3	
	径 20mm未満	3	
	径 20mm以上	5	
I	腫瘍(血管腫を除く)	5	
	胆道気腫症	5	
	肝内胆管拡張	5	
	肝内結石	5	
	肝内石灰化	2	
	血管異常	5	
	J	異常なし	1
		描出不能	5
		ポリープ	3
		腫瘍	5
		壁肥厚 (>3mm)	5
コメット様エコー		2	
サイズ		3	
腫大		3	
縮小		3	
充満型		5	
非充満型		3	
スラッジ(debris)	3		

過去の検診結果が確認できる時は、その結果をふまえて事後指導区分を決める。

区分

- 1 異常なし
- 2 軽度異常
- 3 経過観察
- 4 要治療
- 5 要精検

分類	所見	区分
E	異常なし	1
	描出不能・不明	5
	尿管拡張(径 3mm以上)	5
	嚢胞	3
	壁・内部エコー異常なし	3
	壁・内部エコー異常あり	5
	隣石	4
	限局性腫大	5
	腫瘍	5
	描出不能・不明	5
	変形・輪郭不整(萎縮を伴わない)	3
F	奇形	2
	サイズの左右差	2
	萎縮(皮質像の変化を伴う)	5
	嚢胞	2
	壁・内部エコーの異常なし	2
	壁・内部エコーの異常あり	5
	成人型嚢胞腎	3
	石灰化または結石	3
	腎盂拡張・水腎症	5
	血管筋脂肪腫	5
	腫瘍	5
腎摘出後	2	
G	描出不能・不明	1
	副脾	2
	嚢胞	2
	石灰化	2
	脾腫	5
	腫瘍	5
	脾門部異常血管	5
	脾摘出後	2
	腹部大動脈瘤	5
	腹水	5
	リンパ節腫大	5
H	異常なし	1
	描出不能	5
	ポリープ	3
	腫瘍	5
	壁肥厚 (>3mm)	5
	コメット様エコー	2
	サイズ	3
	腫大	3
	縮小	3
	充満型	5
	非充満型	3
スラッジ(debris)	3	

(日本人間ドック学会腹部超音波検査所見の判定および事後指導区分を一部改変)